資料 1-1

第２６回和歌山県障害者スポーツ大会について

１　主催　和歌山県、和歌山県障害者スポーツ協会

２　主管　和歌山県障害者スポーツ協会

３　開会式　５月１７日（日）10:30～　紀三井寺公園陸上競技場

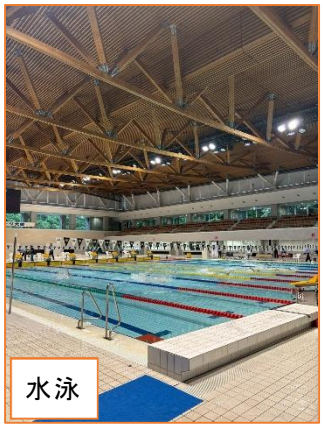
４　実施競技（各競技の参加者数は、令和８年４月３０日時点の延べ人数です。）

競技	日時	場所	参加者数
陸上競技	５月１７日（日） 12:30～	紀三井寺公園陸上競技場	２２４人
アーチェリー	５月２４日（日） 13:00～	県障害児者サポートセンター アーチェリー場	６人
卓球	５月２４日（日） 13:00～	県障害児者サポートセンター 体育館	５１人
水泳	６月　７日（日） 13:45～	秋葉山公園県民水泳場	６４人
ボウリング	６月　７日（日） １部　9：20～ ２部 11：20～	和歌山グランドボウル	１３１人
ボッチャ	６月１４日（日） 13:00～	県障害児者サポートセンター 体育館	１８人
フライングディスク	９月２７日（日） 10:00～	紀三井寺公園陸上競技場	２４９人

５　大会の様子


開会式


陸上競技


水泳


ボウリング

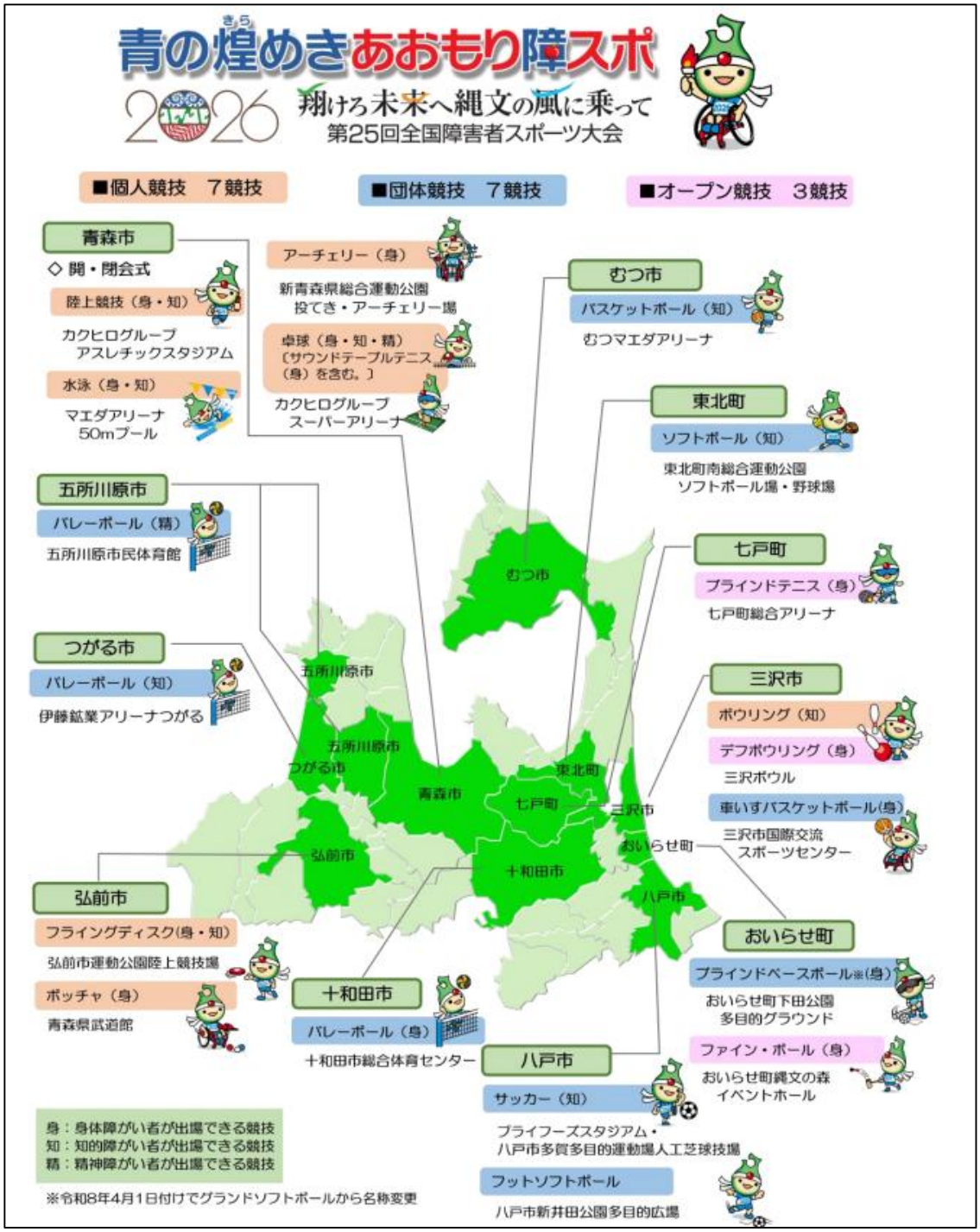
資料 1-2

第25回全国障害者スポーツ大会
「青の煌（きら）めきあおもり障スポ」について

1　会期　令和８（2026）年10月23日（金）～26日（月）

2　和歌山県選手団
個人競技･･･２５名
団体競技･･･フットソフトボール（知）

3　実施競技



資料 2-1

第80回(第81回冬季)国民スポーツ大会近畿ブロック大会 日程･会場一覧

第1次参加申込競技（10競技）　　青森県本締切：令和8年8月13日（木）

競技名		開催日	会場地	会場
水泳	水球	7/31(金)～8/2(日)	草津市	インフロニア草津アクアティクスセンター
	AS	7/19(日)	大阪府門真市	東和薬品ラクタブドーム
ローイング		7/19(日)	大津市	関西みらいローイングセンター
ホッケー		7/18(土)～7/20(月・祝)	米原市	OSPホッケースタジアム・米原市伊吹第1グラウンド
ビーチバレーボール		7/4(土)	大阪府岬町	大阪府営せんなん里海公園潮騒ビバレー
体操	競技	7/12(日)	大津市	滋賀ダイハツアリーナ
	新体操	7/11(土)		
	トランポリン	7/12(日)		
ハンドボール	成年男女	7/19(日)～7/20(月・祝)	彦根市	プロシードアリーナHIKONE
	少年男女	7/17(金)～7/18(土)		
ライフル射撃		7/4(土)～7/5(日)	大阪府能勢町	能勢町ライフル射撃場
カヌー	SP	7/11(土)～7/12(日)	東近江市	伊庭内湖特設カヌー競技場
	SL/WW	6/20(土)～6/21(日)	大津市	瀬田川特設カヌー競技場
ボウリング		7/18(土)～7/19(日)	彦根市	GiGO BOWL ビバシティ彦根
ゴルフ		6/18(木)	湖南市	近江カントリー倶楽部

第2次参加申込競技（21競技）　　青森県本締切：令和8年9月3日（木）

競技名		開催日 8/14(金)	8/15(土)	8/16(日)	会場地	会場
サッカー	成年女子	6/20(土)～6/21(日)			甲賀市	ニッパツ陸上競技場（水口スポーツの森 陸上競技場）
	少年男子	6/19(金)～6/21(日)			守山市	野洲川歴史公園サッカー場
	少年女子	6/20(土)～6/21(日)				
テニス		7/11(土)～12(日)			長浜市	県民共済ドーム長浜
バレーボール　6人制		8/22(土)～23(日)			草津市	草津市立滋賀トヨタアリーナ
バスケットボール		8/22(土)～23(日)			大津市	滋賀ダイハツアリーナ
ウェイトリフティング		8/15(土)～17(月)			大津市	皇子が丘公園体育館
ソフトテニス			○	○	長浜市	長浜城テニスガーデン（長浜市民庭球場）
卓球		8/29(土)～30(日)			野洲市	野洲市総合体育館
軟式野球			○	○	近江八幡市	カローラ滋賀はちまんスタジアム
馬術		6/27(土)～28(日)			甲賀市	水口乗馬クラブ
フェンシング		8/22(土)～23(日)			大津市	瀬田公園体育館
柔道				○	長浜市	湖北THGツインアリーナ（長浜伊香ツインアリーナ）
ソフトボール	成年男子	○	○	○	守山市	守山市民球場
	成年女子	○	○	○	草津市	草津グリーンスタジアム
	少年男女	○	○		草津市	草津市立野村公園グラウンド
バドミントン			○	○	東近江市	タナベエナジー能登川アリーナ
弓道		8/22(土)～23(日)			和歌山県田辺市	田辺市立弓道場
剣道				○	守山市	守山市民体育館
ラグビーフットボール	成年男子	8/29(土)			野洲市	滋賀県希望が丘文化公園陸上競技場
	少年男子	8/27(木)・29(土)				滋賀県希望が丘文化公園球技場
	女子	8/27(木)				滋賀県希望が丘文化公園陸上競技場
スポーツクライミング		8/1(土)～2(日)			京都府亀岡市	グラビティリサーチ　サンガスタジアム by KYOCERA
アーチェリー			○	○	愛荘町	愛荘町中央スポーツ公園
空手道		7/26(日)			草津市	草津市立滋賀トヨタアリーナ
銃剣道		8/23(日)			高島市	高島市立新旭体育館
なぎなた		8/22(土)			彦根市	パナソニック株式会社くらしアプライアンス社彦根工場多目的ホール

〈冬季大会〉　　神奈川県本締切：未定

競技名	開催日	会場地	会場
アイスホッケー（成年男子）	11/28(土)・29(日) 12/5(土)・6(日)	大津市	木下カンセーアイスアリーナ （県立アイスアリーナ）

資料 2-2

青の煌めきあおもり国スポ（第80回国民スポーツ大会）競技会会期

＜本大会＞

式典	会場地	式典会場	式典日数	競技日程										
				1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目	11日目
				10月										
				10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
				土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
総合開会式	青森市	マエダアリーナ	1	●										
総合閉会式			1											●

【正式競技（本会期）】

競技名		種別	会場地	競技会場	競技日数	競技日程										
						1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目	10日目	11日目
						10月										
						10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
						土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
陸上競技		全種別	青森市	カクヒログループアスレチックスタジアム	5						●	●	●	●	●	
サッカー		成年女子	十和田市	十和田市高森山球技場	4		●	●	●	●						
				十和田市高森山人工芝多目的グラウンド	2		●	●								
			五戸町	ひばり野公園陸上競技場	1		●									
		少年男子	八戸市	プライフーズスタジアム	5	●	●	●	●	●						
				八戸市東運動公園陸上競技場	2	●	●									
				八戸市南郷陸上競技場	3	●	●	●								
		少年女子	十和田市	十和田市高森山人工芝多目的グラウンド	1	●										
			五戸町	ひばり野公園陸上競技場	4	●	●	●	●							
			南部町	ふるさと運動公園陸上競技場	2	●	●									
テニス		全種別	青森市	新青森県総合運動公園テニスコート	4		●	●	●	●						
バレーボール	6人制	成年男子	青森市	マエダアリーナ	4		●	●	●	●						
		成年女子	五所川原市	五所川原市民体育館	4		●	●	●	●						
		少年男子	青森市	マエダアリーナ	4		●	●	●	●						
		少年女子	つがる市	伊藤鉱業アリーナつがる	4		●	●	●	●						
バスケットボール		成年男子	八戸市	八戸市東体育館	4						●	●	●	●		
		成年女子	むつ市	むつマエダアリーナ	4						●	●	●	●		
		少年男子	十和田市	十和田市総合体育センター	5						●	●	●	●	●	
		少年女子	三沢市	三沢市国際交流スポーツセンター	5						●	●	●	●	●	
レスリング		全種別	八戸市	FLAT　HACHINOHE	4			●	●	●	●					
ウエイトリフティング		成年男子・女子・少年男子	平川市	ひらかわドリームアリーナ	5	●	●	●	●	●						
自転車	トラックレース	男子A・男子B・女子	八戸市	八戸自転車競技場	1	●	（7日～10日）									
	ロードレース	男子A・男子B・女子	階上町	階上町特設ロードレースコース	1		●									
ソフトテニス		全種別	青森市	新青森県総合運動公園テニスコート	4							●	●	●	●	
卓球		全種別	青森市	カクヒログループスーパーアリーナ	5		●	●	●	●	●					
軟式野球		成年男子	青森市	青森県営野球場	2		●	●								
				ダイシンベースボールスタジアム	4		●	●	●	●						
			三沢市	三沢市民運動広場野球場	3		●	●	●							
			六戸町	六戸町総合運動公園野球場	3		●	●	●							
			おいらせ町	おいらせ町下田公園野球場	1		●									
			六ヶ所村	六ヶ所村大石総合運動公園第三球場	1		●									
馬術		成年男子・成年女子・少年	山梨県北杜市	山梨県馬術競技場	4						●	●	●	●		
フェンシング		全種別	むつ市	むつマエダアリーナ	4	●	●	●	●							
柔道		成年男子・女子・少年男子	つがる市	伊藤鉱業アリーナつがる	3								●	●	●	
ソフトボール		成年男子	八戸市	八戸市長根公園野球場	3								●	●	●	
				八戸市東運動公園野球場	2								●	●		
		成年女子	弘前市	弘前市運動公園野球場	3								●	●	●	
				岩木山総合公園野球場	2								●	●		
		少年男子	東北町	東北町南総合運動公園ソフトボール場	3								●	●	●	
				東北町南総合運動公園野球場	2								●	●		
		少年女子	三沢市	三沢市南山屋外運動場（A球場）	3								●	●	●	
				三沢市南山屋外運動場（B球場）	2								●	●		
バドミントン		全種別	黒石市	スポカルイン黒石	4		●	●	●	●						
弓道	近的	全種別	弘前市	青森県武道館	4	●	●	●	●							
	遠的	全種別			3	●	●	●								
剣道		全種別	七戸町	七戸町総合アリーナ	3								●	●	●	
ラグビーフットボール	7人制	成年男子	八戸市	プライフーズスタジアム	2							●	●			
		女子			2									●	●	
	15人制	少年男子	青森市	大進建設スポーツ広場ラグビー場	4						●	●		●	●	
スポーツクライミング	リード・ボルダー	全種別	青森市	盛運輸アリーナ	3		●	●	●							
カヌー	スプリント	全種別	西目屋村	津軽白神湖特設カヌー競技場	4						●	●	●	●		
空手道		全種別	弘前市	青森県武道館	3								●	●	●	
銃剣道		成年男子・少年男子	三沢市	三沢市国際交流スポーツセンター	3		●	●	●							
なぎなた		成年女子・少年女子	藤崎町	スポーツプラザ藤崎	3								●	●	●	
ボウリング		全種別	八戸市	ゆりの木ボウル	5			●	●	●	●	●				

【正式競技（会期前Ⅰ）】

競技名		種別	会場地	競技会場	競技日数	競技日程										
						9月										
						3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
						木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
水泳	競泳	全種別	青森市	マエダアリーナ50mプール	3									●	●	●
	水球	少年男子・女子			4			●	●	●	●					
	AS	少年女子			1	●										
	OWS	男子・女子		サンセットビーチあさむし特設会場	1							●				
	飛込	全種別	宮城県利府町	セントラルスポーツ宮城G21プール	3								●	●	●	
ローイング		全種別	むつ市	むつ市大湊特設ローイング場	4								●	●	●	●
ホッケー		成年男子・成年女子	六ヶ所村	六ヶ所村内子内農山村広場多目的広場	5		●	●	●	●	●					
		少年男子・少年女子	三沢市	青森県立三沢高等学校グラウンド	5		●	●	●	●	●					
バレーボール	ビーチバレーボール	少年男子・少年女子	青森市	サンセットビーチあさむし特設会場	4	●	●	●	●							
体操	競技	全種別	弘前市	青森県武道館	4	●	●	●	●							
	新体操	少年男子・少年女子			2										●	●
	トランポリン	男子・女子		岩木山総合公園体育館	1							●				
セーリング		全種別	むつ市	大平マリーナ	4		●	●	●	●						
ハンドボール		成年男子・成年女子	青森市	盛運輸アリーナ	5		●	●	●	●	●					
		少年男子・少年女子		マエダアリーナ	5		●	●	●	●	●					
		少年男子	野辺地町	青森県立野辺地高等学校体育館	4		●	●	●	●						
相撲		成年男子・少年男子	十和田市	十和田市相撲場	3									●	●	●
ライフル射撃	50m	成年男子・成年女子	弘前市	弘前市運動公園運動広場特設ライフル射撃場	4								●	●	●	●
	10m	全種別			4								●	●	●	●
	BR・BP	少年男子・少年女子		弘前克雪トレーニングセンター	3								●	●	●	
	25m	成年男子	青森市	青森県警察学校射撃場	3									●	●	●
カヌー	SL・WW	成年男子・成年女子	西目屋村	目屋渓谷岩木川カヌー競技場	4		●	●	●	●						
クレー射撃	トラップ・スキート	成年	弘前市	弘前クレー射撃場	4	●	●	●	●							
ゴルフ		成年男子	平内町	夏泊ゴルフリンクス	3							●	●	●		
		女子	青森市	青森カントリー倶楽部	3							●	●	●		
		少年男子		東奥カントリークラブ	3							●	●	●		
トライアスロン		成年男子・成年女子	青森市	青森市特設トライアスロン会場	1											●

【正式競技（会期前Ⅱ）】

競技名		種別	会場地	競技会場	競技日数	競技日程										
						9・10月										
						29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9
						火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
自転車	トラックレース	男子A・男子B・女子	八戸市	八戸自転車競技場	3							（7日～10日）		●	●	●
アーチェリー		全種別	青森市	カクヒログループアスレチックスタジアム	3							●	●	●		

【特別競技（会期前Ⅱ）】

競技名	種別	会場地	競技会場	競技日数	競技日程										
					9月・10月										
					29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9
					火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
（特別）高等学校野球	硬式	弘前市	弘前市運動公園野球場	3					●	●		●			
	軟式			3				●		●	●				

【公開競技】

競技名	種別	会場地	競技会場	競技日数	競技日程
綱引	—	平内町	平内町立体育館	2	8月22日（土）～ 8月23日（日）
ゲートボール	—	十和田市	十和田市若葉球技場	2	8月29日（土）～ 8月30日（日）
武術太極拳	—	三沢市	三沢市国際交流スポーツセンター	2	8月 8日（土）～ 8月 9日（日）
パワーリフティング	—	藤崎町	スポーツプラザ藤崎	2	9月26日（土）～ 9月27日（日）
グラウンド・ゴルフ	—	平川市	平川市陸上競技場、平賀多目的広場	2	9月26日（土）～ 9月27日（日）
バウンドテニス	—	十和田市	十和田市総合体育センター	2	10月 3日（土）～10月 4日（日）
エアロビック	—	平川市	ひらかわドリームアリーナ	2	8月22日（土）～ 8月23日（日）

資料３

ワールドマスターズゲームズ 2027 関西について

【ｽﾎﾟｰﾂ課ﾜｰﾙﾄﾞﾏｽﾀｰｽﾞｹﾞｰﾑｽﾞ推進室】

１　準備状況について

(1)　ワールドマスターズゲームズ 2021 関西和歌山県実行委員会実施本部を 2026 年８月から 2027 年５月 31 日まで設置（予定）

(2)　各競技団体との競技運営方法及び競技会場レイアウト・設え等の協議

(3)　ボランティア募集開始（期間：2026 年６月１日から 11 月 30 日まで）

２　エントリーについて

(1)　エントリー期間　2026 年３月２日から 2027 年２月 28 日まで

(2)　各競技・種目のエントリー状況（2026 年７月 15 時点）

	府県市	競技	種目	定員枠		登録数（当選数）				登録率
				区分	数	延べ人数合計	チーム	チーム人数	シングル	
1	和歌山県	陸上競技	ﾊｰﾌﾏﾗｿﾝ	シングル	5,000	4,544			4,544	91%
2		陸上競技	駅伝	チーム	105	331	87	331		83%
3		ﾀﾞﾝｽｽﾎﾟｰﾂ		チーム	500	207	114	207		23%
4		ｾｰﾘﾝｸﾞ	ｾｰﾘﾝｸﾞ	チーム	55	178	38	63		69%
				シングル	195	115			115	59%
5		ｾｰﾘﾝｸﾞ	ｳｲﾝﾄﾞｻｰﾌｨﾝ	シングル	100	103			103	103%
6		射撃	ﾗｲﾌﾙ	シングル	372	253			253	68%
7		ﾊﾞﾚｰﾎﾞｰﾙ	ｲﾝﾄﾞｱ	チーム	208	1,528	168	1,528		81%

３　広報活動について

(1)　イオンモール和歌山において、パンフレットを配布（4/24、7/12）

(2)　テレビ和歌山「わかラ部」に出演し、大会をＰＲ（5/15）【写真１】

(3)　海南市黒江めった祭りにおいて、パンフレットを配布（5/31）

(4)　田辺市弁慶市において、パンフレットを配布（6/21）

(5)　和歌山バス３台に、大会ＰＲラッピングを実施（7/1 から運行）【写真２】

(6)　JR 和歌山駅、JR 紀伊田辺駅及び南海和歌山市駅において、開催 300 日前記念うちわを配布（7/17）

(7)　JR 和歌山駅中央コンコース改札前柱デジタルサイネージにおいて、大会ＰＲ15 秒動画の放映（8/1～）（予定）

(8)　イオンモール和歌山において、県実行委員会アンバサダー中垣内祐一氏によるトークイベントを開催（10/12）（予定）

【写真１】



【写真２】



資料 4

令和8年度全国高等学校総合体育大会競技会場・競技日程

2026.05.11

県名	競技種目		会場地市町村名	競技会場	7月										8月																	
					22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
					水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
滋賀県	総合開会式		大津市	滋賀ダイハツアリーナ													◎																	
	陸上競技		彦根市	平和堂HATOスタジアム									■	●	●	●	●	●	◆															
	水泳	競泳	草津市	インフロニア草津アクアティクスセンター																						■	●	●	◆						
		飛込	草津市	インフロニア草津アクアティクスセンター																										■	●	●	◆		
		水球	草津市	インフロニア草津アクアティクスセンター																											■	●	●	◆
	バレーボール	女子	大津市	滋賀ダイハツアリーナ													◎																	
			草津市	草津市立滋賀トヨタアリーナ														●	●	●	◆													
			守山市	守山市民体育館														●	●	●														
	ローイング		大津市	関西みらいローイングセンター																		○	●	●	●	◆								
	ホッケー		米原市	滋賀県立文化産業交流会館																	○													
				OSPホッケースタジアム																		●	●	●	●	◆								
				米原市伊吹第1グラウンド																		●	●	●										
			長浜市	県民共済ドーム長浜																		●	●											
	ウエイトリフティング		高島市	高島市民会館									○																					
				滋賀県立安曇川高等学校										●	●	●	◆																		
	フェンシング		大津市	滋賀ダイハツアリーナ																			○	●	●	●	◆								
京都府	バレーボール	男子	京都市	にっしんでんきアリーナ京都（京都市体育館）														○	●	●	●													
				島津アリーナ京都（京都府立体育館）															●	●	●	◆													
	ソフトテニス	男子	福知山市	三段池科研電機テニスコート														○	●	●	◆													
		女子												○	●	●	◆																	
	自転車競技	トラック	大阪府岸和田市	日本トーターブッキースタジアム岸和田(岸和田競輪場)							○	●	●		●																			
		ロード	南丹市	美山町特設ロードコース												◆																		
	ボクシング		宇治市	京都府立山城総合運動公園メインアリーナ														○	●	●	●	●	◆											
大阪府	バスケットボール		大阪市	Asueアリーナ大阪（大阪市中央体育館）					○	●	●	●	●		●	◆																		
				HOSE住吉スポーツセンター（大阪市立住吉スポーツセンター）						●	●																								
			堺市	大浜だいしんアリーナ（堺市立大浜体育館）						●	●																								
			羽曳野市	タケダハムはびきのコロセアム（羽曳野市立総合スポーツセンター）						●																									
	卓球		大阪市	Asueアリーナ大阪（大阪市中央体育館）																					○	●	●	●	●	◆					
	ソフトボール	男子	大阪市	大阪市中央公会堂											○																			
				セレッソスポーツパーク舞洲												●	●	●	●																
				Hotel The Day Osaka															□																
		女子	大阪市	大阪市中央公会堂					○																										
				セレッソスポーツパーク舞洲						●	●	●	●																						
				おおさにアリーナ舞洲									□																						
	アーチェリー		大阪市	ヤンマースタジアム長居													●	●	●															
			大阪市	YANMAR HANASAKA STADIUM（長居球技場）															□															
兵庫県	体操	体操競技	神戸市	神戸総合運動公園 グリーンアリーナ神戸									○	●	●	◆																		
		新体操																	○	●	◆													
	登山		豊岡市・養父市・香美町	氷ノ山・鉢伏山・蘇武岳															■	●	●	●	□											
	空手道		姫路市	兵庫県立武道館															○	●	●	◆												
	カヌー		豊岡市	兵庫県立円山川公苑周辺水域										○	●	●	●	◆																
奈良県	ハンドボール		天理市	天理大学杣之内第一体育館																			○	●	●	●	●	●	◆						
			天理市	天理市立総合体育館																				●	●	●	●								
			桜井市	桜井市芝運動公園総合体育館																				●	●	●									
			五條市	五條市ベストラインシダーアリーナ																				●	●										
			宇陀市	宇陀市総合体育館																				●	●										
	剣道		奈良市	ロートアリーナ奈良												○	●	●	◆															
	テニス		橿原市、明日香村	ワタキューテニスパーク明日香												■	●	●	●	●	●	◆												
	なぎなた		奈良市	ロートアリーナ奈良																			○	●	●	◆								
和歌山県	バドミントン		和歌山市	和歌山ビッグホエール	○	●	●	●	●	◆																								
				和歌山ビッグウエーブ		●		●	●																										
				こうふくホーム和歌山アリーナ（和歌山県立体育館）		●		●	●																										
	相撲		和歌山市	和歌山ビッグホエール									■		●	◆																		
	柔道		和歌山市	和歌山ビッグホエール															■	●	●	●	◆											
	レスリング		那智勝浦町	那智勝浦町体育文化会館		■	●	●	◆																									
	弓道		田辺市	田辺スポーツパーク体育館											■	●	●	◆																
	ヨット		和歌山市	和歌山セーリングセンター																						○	●	●	●	◆					
	少林寺拳法		橋本市	和歌山県立橋本体育館									■		●	◆																		
北海道	サッカー	女子	旭川市	大雪クリスタルホール					○																									
				リアルター夢りんご東光スポーツ公園球技場						●	●		●	◆																					
				忠和公園多目的広場						●																									
福島県	サッカー	男子	楢葉町	Jヴィレッジ				●	●		●	●																						
				住鉱エナジーマテリアルNARAHAピッチ				●	●																										
			広野町	Jヴィレッジスタジアム				■	●		●	●		●	◆																			
				広野町サッカー場				●	●																										
			いわき市	ハワイアンズスタジアムいわき				●	●																										
				新舞子フットボール場				●	●																										
県名	競技種目		会場地市町村名	競技会場	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
					水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金

◎:総合開会式　○:競技種目別開会式　■:競技種目別開会式後競技　●:競技　◆:競技後閉会式　□:閉会式

資料 5-1

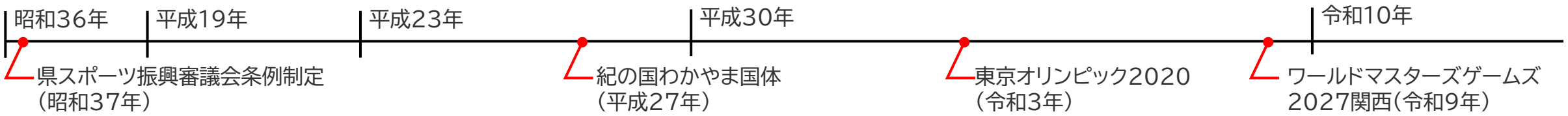
次期和歌山県スポーツ推進計画の策定について

令和8年7月31日

和歌山県スポーツ推進審議会

次期和歌山県スポーツ推進計画の策定について

■ スポーツ推進に係る関係法令・計画等の経過



スポーツ振興法（S36-H22）
スポーツ振興の法的根拠

スポーツ基本法（H23-）
・スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利
・スポーツ施策を総合的・計画的に推進

＜R7年改正の概要＞
・部活動の地域展開など発達段階に応じたスポーツの推進等
・スポーツコンプレックス・ホスピタリティ、eスポーツ　など

スポーツ振興計画（H13-H23）	**第1期スポーツ基本計画**（H23-H28）	**第2期スポーツ基本計画**（H29-R3）	**第3期スポーツ基本計画**（R3-R8）	**第4期スポーツ基本計画**（検討中・R9-）

和歌山県スポーツ振興基本計画（H19-H29）
・生涯スポーツ社会の実現
・競技力の向上
・子どもの体力の向上
・体育・スポーツ施設の充実
・国民体育大会開催に向けた取組

和歌山県スポーツ推進計画（H30-R9）
・学校と地域における子供のスポーツ環境の充実
・ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
・世界の舞台で活躍できる競技者の発掘・育成・強化
・全国大会・国際大会の開催及び国際競技大会等に係るキャンプ誘致による県民のスポーツに対する意識や関心の向上と県内各地域の活性化

◆ スポーツを取り巻く環境の変化、スポーツ基本法改正等を踏まえ、国において第4期スポーツ基本計画の策定が進められている。

◆ 本県においても、現行スポーツ推進計画の終期を見据え、**次期計画の策定を進め**、本審議会において調査・審議いただきたい。

次期和歌山県スポーツ推進計画の策定について

■ スポーツ基本法における地方スポーツ推進計画の位置付けについて

スポーツ基本法第9条、10条

- 文部科学大臣は、スポーツ基本計画を策定すること、地方公共団体は、それを参酌して、地方スポーツ推進計画を定めるよう努めることを規定。
- 地方公共団体の長が地方推進計画の策定又は変更するときは、教育委員会の意見を聴く必要がある。

第10条　**都道府県**及び市（特別区を含む。以下同じ。）町村の教育委員会（**地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第23条第1項の条例の定めるところによりその長がスポーツに関する事務（学校における体育に関する事務を除く。）を管理し、及び執行することとされた地方公共団体（以下「特定地方公共団体」という。）にあっては、その長）は、単独で**又は共同して、**スポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画（以下「地方スポーツ推進計画」という。）を定めるよう努める**ものとする。

2　地方スポーツ推進計画は、スポーツに関連する他の計画と一体のものとして定めることができる。

3　特定地方公共団体の長が地方スポーツ推進計画を定め、又はこれを変更しようとするときは、あらかじめ、当該特定地方公共団体の教育委員会の意見を聴かなければならない。

スポーツ基本法第31条

- 地方スポーツ推進計画等の重要事項を調査審議する機関として、スポーツ推進審議会を設置。

第31条　**都道府県**及び市町村**に、地方スポーツ推進計画**その他のスポーツの推進**に関する重要事項を調査審議させるため、条例で定めるところにより、審議会その他の合議制の機関（以下「スポーツ推進審議会等」という。）を置くことができる**。

和歌山県におけるスポーツ関連計画について

	和歌山県スポーツ振興計画	和歌山県スポーツ推進計画
策定時期	平成19年12月	平成30年4月
計画期間	平成19年度から概ね10年間	平成30年度から概ね10年間
計画の体系	スポーツや社会を取り巻く環境が大きく変化する中、県民の多様なニーズに応え、県民の一人ひとりがスポーツ活動を実践できる環境を整備することが重要な責務とのねらいの下、スポーツ振興法の規定に基づき計画を策定。 スポーツ行政の主要課題5項目を提示し、項目ごとに目標、具体的な方策を設定。	スポーツ基本法の理念や和歌山県長期総合計画、和歌山県教育振興基本計画を踏まえ、スポーツを通じてめざす社会とそれを実現するための基本方針を提示。 基本方針4項目ごとに政策目標、具体的な方策を設定。
めざす社会	（規定なし）	全ての県民一人一人が、それぞれのライフステージにおいて、関心・適性等に応じ、自主的・自発的にスポーツとふれあい、日常的にスポーツに親しむ、楽しむ、支えるなどの活動を通じて、生涯にわたり生活の質の向上が図れる社会の実現をめざします。
項目 ※振興計画：主要課題 推進計画：基本方針	生涯スポーツ社会の実現 世界を目指した競技力向上方策の充実 学校・家庭・地域の連携による子どもの体力の向上とスポーツ振興 体育・スポーツ施設の整備充実 第70回国民体育大会開催に向けた取組	学校と地域における子どものスポーツ環境の充実 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進 世界の舞台で活躍できる競技者の発掘・育成・強化 全国大会・国際大会の開催及び国際競技大会等に係るキャンプの誘致による県民のスポーツに対する意識や関心の向上と県内各地域の活性化

現和歌山県スポーツ推進計画の政策目標と指標について

1　学校と地域における子供のスポーツ環境の充実

（政策目標）　幼少期から、子供の運動への興味・関心を高めるとともに、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育み、豊かなスポーツライフを実現する基礎づくりを行います。

指標	基準値（平成28年度）	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	目標値（令和4年度）	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績	目標値（令和9年度）
全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小学校5年生）の全国順位	男12位 女12位 （平成29年度）	男16位 女11位	男16位 女15位	―	男18位 女20位	男18位 女22位	男女とも 10位以内	男16位 女17位	男22位 女15位	男15位 女13位	10位以内
全国体力・運動能力、運動習慣等調査（中学校2年生）の全国順位	男33位 女29位 （平成29年度）	男25位 女21位	男23位 女12位	―	男35位 女22位	男27位 女28位	男女とも 15位以内	男29位 女29位	男24位 女20位	男27位 女30位	10位以内

主な取組

- 学校や地域の連携により、子供が運動・スポーツに親しむ機会の確保に取り組んだ。
- 幼児期から高校期まで、発達段階に応じたスポーツ環境づくりに取り組んだ。

課 題

- 持続可能な運動・スポーツ環境を確保するため、地域での受け皿を広げる取り組みが必要。
- 現計画に掲げた目標値に達していない。一方、本審議会でも、生涯にわたって運動・スポーツに親しむ基礎を形成する上では、運動・スポーツに対し、愛好度を高めることが重要との意見をいただいてきたところ。
  次期計画の検討を進める上では指標の見直しも必要。

現和歌山県スポーツ推進計画の政策目標と指標について

2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

（政策目標） 県民の誰もが、それぞれの体力、年齢、技能、興味及び目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる環境づくりを推進します。

指標	基準値（平成28年度）	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	目標値（令和4年度）	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績	目標値（令和9年度）
成人の週1回以上のスポーツ実施率	46.0%	—	—	—	52.2%	54.5%	65.0%	—	53.5%	—	70.0%

主な取組

- スポーツ大会の開催等により、成人や高齢者を含む幅広い世代がスポーツに親しむ機会づくりに取り組んだ。
- 総合型地域スポーツクラブの育成・支援等を通じて、地域で継続的にスポーツ活動ができる基盤の整備を進めた。
- 障害者スポーツ大会等を通じて、障害の有無にかかわらず参加できる機会づくりに取り組んだ。

課 題

- 現計画に掲げた目標値に達しておらず、仕事や家事に忙しい世代や運動習慣のない層への参加促進が必要。
- 人口減少が見込まれる中、スポーツ活動を支える指導者や運営者等の担い手の確保・育成と、公共施設の老朽化を踏まえた活動場所の確保・維持が必要。
- ワールドマスターズゲームズ2027の開催で得られたレガシーを、生涯スポーツの推進につなげることが必要。
- 障害者スポーツ大会の参加者数は増加傾向にあるものの、ピーク時の水準には達しておらず、さらなる参加促進が必要。

現和歌山県スポーツ推進計画の政策目標と指標について

3　世界の舞台で活躍できる競技者の発掘・育成・強化

（政策目標）本県トップアスリートが、オリンピック競技大会・パラリンピック競技大会等の国際舞台で活躍することにより、子供がスポーツに対する夢や憧れを抱き、スポーツに取り組むきっかけとなり、次世代のトップアスリート育成につながります。紀の国わかやま国体などで活躍した競技者を優秀な指導者として育成し、次世代のトップアスリートを輩出していくという好循環を生み出し、競技力の向上と競技人口の拡大を図ります。

指標	基準値（平成28年度）	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	目標値（令和4年度）	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績	目標値（令和9年度）
オリンピック・パラリンピック競技大会における本県関係者の出場者数	9名（リオデジャネイロ）	—	—	—	13名（東京）	—	10名以上	—	8名（パリ）	—	15名以上
国民体育大会男女総合成績	26位（平成29年度）	27位	22位	—	—	39位	20位台	32位	47位	38位	20位台
全国高等学校総合体育大会での入賞種目数	39種目（平成29年度）	28種目	30種目	—	41種目	37種目	50種目	36種目	32種目	34種目	50種目

主な取組

- 『ゴールデンキッズ発掘プロジェクト』の後継事業として『スポーツマッチングプロジェクト～やっChaる!!～』を新たに立ち上げるなど、事業の見直しを図りながら次代の競技者発掘・育成を進めた。
- 指導者の資質向上に向けた研修や派遣等の取組を進め、競技者を支える育成環境の充実を図った。

課 題

- 競技者の発掘・育成と指導者の確保・育成について、中長期的な視点で継続的に取り組むことが必要。

現和歌山県スポーツ推進計画の政策目標と指標について

4　全国大会・国際大会の開催及び国際競技大会等に係るキャンプの誘致による県民のスポーツに対する意識や関心の向上と県内各地域の活性化

（政策目標）トップレベルのスポーツに身近に触れられる機会をより多く創出することで県民のスポーツに対する意識や関心を一層高めるとともに、スポーツによる地域の活性化につなげます。

指標	基準値（平成28年度）	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	目標値（令和4年度）	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績	目標値（令和9年度）
国内外ナショナルチーム等のキャンプ年間誘致数	5件	10件	8件	4件	12件	8件	10件	10件	6件	5件	15件

主な取組

- プロスポーツチームによる公式戦や全国高等学校総合体育大会の開催を通じて、県民のスポーツへの関心や意識の向上を図った。
- 国際競技大会等に係るキャンプの誘致や大会開催を通じて、地域交流や県内各地域の活性化に努めた。

課 題

- 県民のスポーツへの関心を一層高めるため、プロスポーツチームによる公式戦の継続的な開催や国際大会等をターゲットにした事前合宿の誘致を推進することが必要。
  また、こうした取り組みを一過性のものとせず、地域に定着させるとともに、スポーツを通じた地域の発展・活性化につなげることが必要。
- 多様なスポーツ機会を確保するため、老朽化が進む県有スポーツ施設のあり方を検討し、改修等を進めるなど、スポーツ活動の拠点となる施設の機能確保を進めることが必要。

次期計画の検討に当たって考慮すべき環境の変化

■ 和歌山県を取り巻く環境の変化

社会の潮流における予測される未来の状況や和歌山県の特性を踏まえ、『**和歌山県総合計画**』を策定（R8年度～）［別紙］

■ スポーツを取り巻く環境の変化

スポーツ基本法の改正（R7年度）

◆スポーツを通じた社会課題の解決への対応と、ウェルビーイングの向上に向けたスポーツ権の実質化を図る観点から改正

◆スポーツによる「地域振興の推進」「長寿社会・共生社会の実現」等を基本理念に盛り込む

1. スポーツの推進のための基礎的条件の整備等
- まちづくりと一体的なスポーツ施設の整備等（スポーツコンプレックス）
- スポーツ事故の防止等に係る実施環境の整備と気候変動への対応への留意
- スポーツの推進に寄与する情報通信技術の活用に向けた環境整備等
- 部活動の地域展開等をはじめとする発達段階に応じたスポーツの推進等

2. 多様なスポーツの機会の確保のための環境の整備
- 多様な需要に応じたスポーツを楽しむ機会等の確保（スポーツホスピタリティ）
- 情報通信技術を活用したスポーツ機会の充実（eスポーツ）

3. 全国的な規模のスポーツの競技会等に関する規定の改正
- 名称の変更（全国パラスポーツ大会等）
- 国民スポーツ大会・全国パラスポーツ大会の意義の明示等

4. スポーツの公正及び公平の確保等
- 暴力やスポーツに係る競技の不正な操作等の防止
- ドーピング防止活動の推進

国の第4期スポーツ基本計画中間報告案（R9年度～）

◆スポーツ基本法改正の主旨を踏まえスポーツを通じた社会課題への解決の観点から3つの重点課題を設定

◆重点課題への取組を通して計画のねらい「スポーツの「楽しさ」で人や地域の可能性を引き出し、未来を切り拓く」の実現を目指す

1. 国民のスポーツ実施促進と「健康インフラ」構築を通じた豊かな社会等の実現
- スポーツの「楽しさ」を軸とした多様なスポーツの推進
- ライフステージに着目したスポーツ実施率向上のための施策の推進
- 多様な背景に着目したスポーツ施策の推進（女性スポーツ実施の促進など）
- スポーツ実施を促す環境整備のための施策の推進

2.ハイパフォーマンスの追求とアスリートを取り巻く環境整備による社会への還元
- スポーツ医・科学、情報等による多面的で高度な支援の実現
- スポーツ・インテグリティの強化
- キャリア形成支援、アスリートの特性を生かした組織の活性化

3. スポーツの価値を生かした地域・社会貢献
- スポーツの成長産業化（スポーツコンプレックスの推進、スポーツ団体の収益・財務基盤強化とスポーツ事業運営人材の獲得・育成）
- 地域スポーツ資源の活用（スポーツツーリズム等の地域活性化）
- スポーツを通じた国際交流・協力の推進

スポーツ基本法における地方公共団体の責務と努力規定

スポーツ基本法（R7改正後）に規定されている地方公共団体が責務のある又は努める取組は次のとおり

1. 人材・組織の確保

- 学校、地域、スポーツ団体等との連携・協働に努めること（第7条）
- スポーツの指導者等の養成・資質向上・活用に努めること（第11条）
- スポーツ推進委員を委嘱し、地域の推進体制を整備すること（第32条）
- 地域スポーツクラブ等の活動を支援すること（第21条）

2. 施設・環境整備

- スポーツ施設の整備、運用改善、指導者等の配置に努めること（第12条第1項）
- 安全確保や障害者等の利便性向上に配慮すること（第12条第2項）
- スポーツ施設・他施設・周辺地域と一体となった整備を推進すること（第12条第3項）
- 学校施設を一般のスポーツ利用に供し、施設の改修や照明整備等に努めること（第13条第1項）

3. 安全・安心の確保

- スポーツ事故や外傷等の防止・軽減のための必要な措置を講ずること（第14条第1項）
- 気候の変動への対応に特に留意すること（第14条第2項）

スポーツ基本法における地方公共団体の責務と努力規定

スポーツ基本法（R7改正後）に規定されている地方公共団体が責務のある又は努める取組は次のとおり

4. 多様なスポーツ機会の確保

- 幼児・児童・生徒・学生等が継続的に多様なスポーツに親しむ機会を確保すること（第16条の3）
- 中学校生徒が地域でスポーツに親しむ機会を確保すること（第17条の2）
- 高等学校生徒のスポーツ推進に必要な措置を講ずること（第17条の3）
- 多様な需要に応じたスポーツを楽しむ機会等を確保すること（第21条の2）
- 住民が参加しやすいスポーツ行事を実施・奨励すること（第22条）
- スポーツの日の行事を実施し、地域での実施を支援すること（第23条）
- 野外活動・スポーツレクリエーション活動を普及奨励すること（第24条）
- ICTを活用したスポーツ機会の充実に努めること（第24条の2）

5. 地域振興・交流・産業との連携

- 地域スポーツクラブによる地域スポーツ振興事業を支援すること（第21条）
- スポーツの推進を通じた地域経済の活性化や交流促進に努めること（第12条第3項、第36条第3項）
- スポーツ行事を通じた住民交流を促進すること（第22条、第23条）
- スポーツ団体への必要経費の補助を行うことができること（第34条）

次期和歌山県スポーツ推進計画の体系について

次期和歌山県スポーツ推進計画の名称や計画期間、計画の体系は次のとおりとしたい

名称	**第2期和歌山県スポーツ推進計画**	• H23スポーツ基本法改正により、同法において地方スポーツ推進計画の策定が位置付けられたところ • 前回より「和歌山県スポーツ推進計画」との名称を使用しており、法との整合性、計画の継続性の観点から「第2期和歌山県スポーツ推進計画」とする
計画期間	**令和10年4月から概ね10年** （5年目に中間見直し）	• 国のスポーツ基本計画は5年毎に策定 • 県の総合計画は長期構想として2040年（15年間）を展望しつつ、実施計画（アクションプラン）の期間は5年としている • 短期間で計画を見直すことは実務的に困難なこともあり、現計画と同様に「**計画期間は10年**」としつつ、「**5年目に中間見直しを行う**」こととする
計画の体系	■ **めざす社会像を掲げ、その実現に向け基本方針を策定** ■ **基本方針毎に政策目標と具体的な方策を定め、施策の実現を図る**	• 現行計画の体系と同様とする

次期和歌山県スポーツ推進計画の骨子について

次期和歌山県スポーツ推進計画でめざす社会像（案）は、現行計画の課題等を踏まえ、次のとおりとしたい

第2期和歌山県スポーツ推進計画においてめざす社会像（案）

誰もが自分らしくスポーツを楽しみ、

スポーツを通じて、

地域に活力と交流が生まれる社会

次期和歌山県スポーツ推進計画の骨子について

次期和歌山県スポーツ推進計画の基本方針（案）は、現行計画の課題等を踏まえ、次のとおりとしたい

第2期和歌山県スポーツ推進計画の基本方針（案）

1. こどもがスポーツを楽しむ機会の充実と地域で支える取組の推進
2. ライフステージや個性に応じたスポーツ機会の充実とウェルビーイングの向上の実現
3. 未来に挑戦するアスリートとグッドコーチの発掘・育成・強化の推進
4. スポーツの多様な楽しみ方を通じた地域の活性化と交流の促進

次期和歌山県スポーツ推進計画の骨子について

1. こどもがスポーツを楽しむ機会の充実と地域で支える取組の推進

政策目標(案)

こどもがスポーツの楽しさや達成感を体験しながら、体力や運動習慣を身につけ、生涯にわたってスポーツに親しめる資質や能力を育む。

部活動の地域展開を見据え、地域のスポーツ資源を生かした持続可能な環境づくりを進める。

施策の例

※具体的な内容は今後検討

- 学校における体育活動の充実
- 幼児期・学童期の運動遊びや体力向上に関する取組の推進
- 総合型地域スポーツクラブ等と連携したスポーツ活動の促進
- 部活動の地域展開に向けた受け皿づくりと地域における指導者の確保・育成
- 特性や環境に関わらず、こどもが多様なスポーツに参加できる機会の確保

2. ライフステージや個性に応じたスポーツ機会の充実とウェルビーイングの向上の実現

政策目標(案)

県民一人ひとりが、それぞれの体力、年齢、生活環境、興味、障害の有無などに応じて、いつでも、どこでも、いつまでも、スポーツに親しめる環境を整える。

多様な参加機会の充実と、スポーツを通じた健康増進・交流・生きがいづくりを進め、ウェルビーイングの向上を図る。

施策の例

※具体的な内容は今後検討

- 総合型地域スポーツクラブなど生涯スポーツを支える組織・担い手の育成・支援
- 健康づくりや介護予防につながる運動・スポーツの推進
- 障害者スポーツ、パラスポーツの普及・体験機会の充実
- ワールドマスターズゲームズ2027や全国大会の機運やレガシーを活用した生涯スポーツの促進
- スポーツレクリエーション活動やICTを活用した多様なスポーツ機会の普及

3. 未来に挑戦するアスリートとグッドコーチの発掘・育成・強化の推進

政策目標(案)

次世代を担うこどもたちが多様な競技スポーツに出会い、適性や意欲に応じて継続的に競技に取り組むことができる環境を整える。

将来性のあるアスリートが、ハイパフォーマンスを追求することのできる環境整備と指導者の資質能力向上を進めることで、トップレベルで活躍できるアスリートの輩出を目指す。

施策の例

※具体的な内容は今後検討

- 多様な競技スポーツに出会う機会の提供
- 将来性のあるアスリートの発掘・育成・強化につながる一貫した支援体制の構築
- スポーツ医・科学サポート等による地域におけるハイパフォーマンスの推進
- 競技力を支える指導者の資質能力向上の推進
- 外部指導者の活用や地域人材の育成促進

4. スポーツの多様な楽しみ方を通じた地域の活性化と交流の促進

政策目標(案)

「する」「みる」「支える」「集まる」「つながる」など、スポーツの多様な楽しみ方を活かし、県内外の人々の交流や人が集う場を生み出すことで、スポーツを通じた地域の活性化を図る。

多様なスポーツ活動の拠点となる施設について、交流の拠点としての活用や周辺地域のまちづくりとの連携を図るとともに、その機能確保を進める。

施策の例

※具体的な内容は今後検討

- 全国大会や国際競技大会等に係るスポーツ合宿等の誘致
- プロスポーツをはじめとするスポーツ関連産業との連携推進
- スポーツ活動の拠点となる施設の機能確保に向けた取組の推進

次期和歌山県スポーツ推進計画の策定について

■ 次期和歌山県スポーツ推進計画の策定スケジュール（案）

時期		国	県
R7	11月	審議会に諮問	
R8	1月～	計画部会で議論	
	3月	骨子案を提示	策定着手の報告
	5月	中間報告案を提示	
	夏頃	中間報告案を決定 パブリックコメント	**骨子案を提示【本日】**
	秋頃～	第4期計画の答申 第4期計画　大臣決定	
R9	2～3月頃		中間報告案
	4月～	第4期計画　運用開始	
	6～7月頃		最終案の諮問・答申
	7～8月頃		パブリックコメント
	8～9月頃		教育委員会に付議 **次期計画策定**（県において決定）
R10	4月～		次期計画　運用開始

随時審議会において審議
※必要に応じて書面開催
　又は個別協議等を実施

資料 5-2

現和歌山県スポーツ推進計画におけるスポーツ推進の具体的な方策の主な成果と課題

頁	具体的な方策 （計画本文）	期間中の事業・取組 （前回見直し時の検討資料）	期間中の主な成果	課題	今後の方向性	備考（方向性の理由など）
7	**1　学校と地域における子供のスポーツ環境の充実**					
9	**ア．幼児期における運動遊びに関する指導の充実**					
	（ア）　幼児期から体を動かす遊びに取り組む機会を保障するため、文部科学省の「幼児期運動指針」の普及・啓発を行います。	○各園・所の保育者に対し、幼児が生活や遊びの中で様々な動きを体験できるよう、「幼児期運動指針」を踏まえた研修会の開催に要する経費。（※県直接執行）	幼稚園、保育所、認定こども園関係職員を対象に、健康体育課と共催して研修会を実施した。参加者から、「遊びの中で様々な動きを楽しめるよう、環境を整えたい」といった、保育改善につながる感想が多く得られた。	今後も保育改善につながるよう、参集型とオンデマンド型を組み合わせるなど、研修を受講しやすい機会を確保する必要性がある。	継続	健康体育課と連携し、研修会等の機会を通して「幼児期運動指針」の普及・啓発を行っていく。
	（イ）　幼児期に適切な運動を体験し、正しい生活習慣を身に付けることが将来の豊かなスポーツライフ実現への基礎となることを保護者に理解を得る取組を推進します。	○園・所訪問時に、教職員に対して、幼児が生活や遊びの中で様々な動きを体験できるような環境構成の重要性についても提案している。	複数回の訪問要請があった園・所については、環境構成の確認や助言の機会が継続的にあり、園・所の取組に伴走支援することができた。	訪問の要請が一度のみの園については、環境構成の確認や助言の機会が限られるため、継続的な改善につながりにくい。	継続	引き続き、園所訪問時に、教職員に対し、幼児が自発的な活動としての遊びの中で、多様な動きを体験できるような環境構成の重要性を啓発していく。
	（ウ）　障害のある子供の障害の種類や程度に応じた運動の機会を確保します。	○情緒に障害のある子どもに運動の機会を提供するため、情緒障害児特別体操教室の開催に要する経費。（※和歌山大学障害児運動教育研究会への委託）	情緒に障害のある子どもを対象に体操教室を開催した。 延べ参加者数　R5：539人（16回実施） R6：471人（15回実施） R7：335人（15回実施）	参加者及び学生ボランティアの人数が年々減少しているため、人員を確保する必要がある。	継続	
	イ．学校における体育活動に関する指導の充実					
	（ア）　学校における体育に関する教員の指導力向上を目的として、研修機会の確保と研修内容の充実を図ります。	○児童生徒の体力向上を図るため体力調査を行い、結果の分析に基づく施策を実践するための経費。（※県直接執行）	【R７年度実績】 教員の指導力向上を目的として、研修会を５回開催した。教員の負担軽減を考慮し、参集型とオンデマンドを選択できるように開催する等、開催方式を工夫し、524名の参加者があった。	こどもが健やかな心身を育み、主体的に学ぶ姿勢を身に付け、生涯にわたって成長し続ける力を備えることを目指す。知識及び技能の習得に加え、思考力や協働する力、健康的な生活習慣を育成し、社会の一員として自立していく基盤を形成する。また、運動の楽しさや達成感を味わう学習過程を重視し、児童生徒が体育授業に対して肯定的な感情を抱き、愛好度を高めることで、主体的に取り組む姿勢と継続的な運動習慣の形成につなげる。	継続	
	（イ）　運動を苦手とする子供の運動意欲を喚起するため、専門性を有する外部指導者を積極的に活用します。	○子供たちが運動の楽しさや大切さを実感できる魅力ある授業づくりをめざし、体育授業改善の取組に要する経費。（※県直接執行）	【R７年度実績】 学校体育で児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を意識した授業展開を研究するモデル校を17校指定し、モデル校における授業研究会を４回開催するとともに、事例集作成により取組の成果を県内に発信した。		継続	
		○専門性を有する外部指導者を積極的に活用する、地域外部指導者派遣に要する経費。（※県直接執行）	【R７年度実績】 武道授業の充実に向け、武道推進モデル校に対し、60回外部指導者を派遣した。専門性を有する外部指導者と教員が連携することで、地域に根差した武道授業の充実を図った。		継続	
	（ウ）　障害のある子供が、体育授業や運動部活動に障害の種類や程度に応じて参加できるように工夫します。	○障害のある子供とない子供が共に学ぶ体育授業の研究のため、アダプテッド体育の実践やインクルーシブ教育の実現に向けた授業改善の取組に要する経費。（※県直接執行）	【R７年度実績】 共生の視点からの授業改善のため、アダプテットスポーツの観点を取り入れた授業づくりについて、授業研究会等で取り組んだ。		継続	
	（エ）　「運動部活動指導の手引」等を活用し、それぞれの学校の特徴を生かした適切で効果的な活動が行われることにより、運動部活動で生徒一人一人の心身の成長を図ります。	○『和歌山県運動部活動指針』や『運動部活動指導の手引』に基づいた、効果的・効率的で適切な指導・運営を促進するとともに、暴力やハラスメントの根絶、安全管理の徹底及び事故防止に取り組む。	【R７年度実績】 「運動部活動指導の手引」等に基づいた適切な部活動の指導及び運営に関する研修会の実施し、90名の参加のもと、意見交換等を通じ自分への気付きと指導者としての資質向上を図った。	『和歌山県学校部活動及び地域クラブ活動の在り方に関する方針』の改定に伴い、『運動部活動指導の手引』を改定する必要あり。	継続	『和歌山県運動部活動指針』は令和６年度末に『和歌山県学校部活動及び地域クラブ活動の在り方に関する方針』に統合

現和歌山県スポーツ推進計画におけるスポーツ推進の具体的な方策の主な成果と課題

頁	具体的な方策 （計画本文）	期間中の事業・取組 （前回見直し時の検討資料）	期間中の主な成果	課題	今後の方向性	備考（方向性の理由など）
	（オ）　学校の実情に応じて外部人材やICT等を活用するなど、持続可能な運動部活動を促進するとともに、中学校運動部活動の地域移行に向けた環境整備を推進します。	○部活動指導員を派遣することで、顧問教員の負担を軽減し、専門家による指導を通じて生徒の体力の向上や専門的な技術の向上を図るために要する経費。（※市町村への補助他）	【R７年度実績】 中学校への運動部活動指導員を94名配置した。	市町村からの希望が拡大してきている。	継続	
	ウ．子供を取り巻く社会のスポーツ環境の充実					
	（ア）　運動習慣が身に付いていない子供やスポーツが苦手な子供を運動好きにするためのきっかけを創出するとともに、豊かな人間性・社会性を育むため、スポーツ・レクリエーション活動等の活用を促進します。	○県、県体育協会及び市町村等と連携し、スポーツ関係団体をはじめとする地域団体・住民等に対して、総合型地域スポーツクラブ育成に向けた啓発に取り組む。	新規クラブ創設数 R5：０クラブ R6：１クラブ（印南町） R7：２クラブ（新宮市　和歌山市）	県内市町村の総合型地域スポーツクラブ担当者との連携が希薄である。 今後、総合型地域スポーツクラブについて理解を深める機会を検討する。	継続	
		○市町村対抗ジュニア駅伝競走大会を開催し、児童生徒の体力向上に資するとともに、地域におけるスポーツ気運の醸成を図るための経費。（※県実行委員会への補助）	大会参加者（選手及び監督） チーム（選手団）数※オープンチーム含む R5：44チーム（747人） R6：43チーム（743人） R7：42チーム（723人） 大会関係者（選手団含む）数 R5：1,982人 R6：1,962人 R7：1,946人	児童・生徒数の減少によりチーム編成が困難な市町村が増えてきており、負担軽減となるよう区間を縮小して実施。 区間設定等運営方法については、状況を見極め慎重に検討を進める必要がある。	継続	
	（イ）　学校、スポーツ少年団、競技団体、総合型地域スポーツクラブ（以下「総合型クラブ」という。）等が連携・協力し、経済的な事由等でスポーツをすることが困難な子供や障害のある子供にも十分配慮しつつ、全ての子供が多様なスポーツ活動が行えるような取組を支援するとともに、地域において活躍するスポーツ指導者の学校における体育に関する指導への積極的な活用を促進します。	○スポーツ少年団総合競技大会や総合型クラブ交流イベント（ブロック別）の開催や体育授業で地域の指導者を活用するために要する経費。	スポーツ少年団総合競技大会　参加者 R5：1,805人 R6：1,690人 R7：1,874人 総合型クラブ（各ブロック事業での参加者） R6：1,758人 R7：1,310人	総合型クラブについて、各ブロック事業の運営が負担になりつつあり交流事業が形骸化していることが課題である。 交流事業については、ブロックごとではなく県内を一つのくくりとして、（公社）和歌山県スポーツ協会（クラブアドバイザー）が中心となって進める形などを検討していく。	見直し	ブロック事業における交流イベントは、クラブの存続、発展を考え近隣クラブ同士の繋がり（横の連携）を作るため平成25年度より県内を4つのブロックに分けて実施。ブロック別の事業を企画・立案し各クラブが運営員を出しで進めてきた。 近年、以前比較して総合型地域スポーツクラブの認知度が高まったことや、経営基盤が安定するクラブも多い。
	（ウ）　生徒がスポーツに親しむことができる機会を確保するため、学校と地域のスポーツクラブ等との連携による指導者派遣や子供の多様なニーズに応えることのできる地域クラブ活動を整備する必要があります。　地域クラブ活動への移行を推進するため、運動部活動の地域移行に係るスケジュールや目標設定、具体的な取組内容等を示すとともに、子供の活動の場を確保するため、学校と地域との連携・協働による、充実した地域クラブ活動が行える環境の整備を支援します。	○運動部活動の段階的な地域移行に向け、国の委託事業である実践研究への取組とその効果等を県内外に発信するための経費。（※国委託費）	【R７年度実績】 ・学校部活動の地域連携・地域移行に係る担当者研修会を２回実施した。 ・学校部活動の地域連携・地域移行に係る推進協議会を３回開催した。 ・県立中学校長との協議（今後の県立中学校における部活動の在り方について）を実施した。 ・中学校部活動の地域展開等の取組を実施する22市町村に対し補助をした。	学校と地域が連携し、持続可能なスポーツ・文化芸術活動環境を構築する。具体的には、地域クラブや指導者の育成・確保を進め、地域で安定して活動できる受け皿を整備する。また、生徒が希望する多様な種目に継続的に参加できる体制を整える。	継続	
10	**２　ライフステージに応じたスポーツ活動の推進**					
13	**ア．スポーツに親しむことができる環境整備の推進**					

現和歌山県スポーツ推進計画におけるスポーツ推進の具体的な方策の主な成果と課題

頁	具体的な方策 （計画本文）	期間中の事業・取組 （前回見直し時の検討資料）	期間中の主な成果	課題	今後の方向性	備考（方向性の理由など）
	（ア）　総合型クラブをはじめ様々な団体等が開催する、親子や家族がともに参加できるスポーツ教室やスポーツイベント等を通じて、地域、年齢、性別、障害の有無に関わらず、子育てや働く世代、普段あまりスポーツに親しんでいない人に対するスポーツへの参画促進に取り組みます。	○「総合型地域スポーツクラブ」の創設・育成、適切な指導、助言、その他必要な支援に要する経費。（※県体育協会への委託）	和歌山県総合型地域スポーツクラブ研修及びクラブアシスタントマネージャー研修を実施し、クラブ運営に携わる人材の育成に取り組んだ。 R6：７人 R7：０人 R8：11人	総合型地域スポーツクラブの創設・運営に欠かすことのできないクラブアドバイザーの育成を促進。	継続	
		○生涯にわたってスポーツに親しむ気運を醸成するため、わかやまリレーマラソンの開催や、マスターズスポーツ体験会の開催に要する経費。（※県実行委員会への負担）	参加無料のファミリーマラソンの部、ハーフ・フルリレーマラソンの部に加え、チームで仮装を楽しむパンダコスチュームコンテスト、さらにはスポーツ体験会やキッズエリア・グルメエリアを同時開催した。 参加者数 R5：173チーム　1,733人 R6：207チーム　1,996人 R7：201チーム　2,037人	参加者数は年々増加傾向にある一方で、大会趣旨の１つである「ワールドマスターズゲームズ2027関西」への参加促進について、参加者アンケート調査の結果、認知度は約３割と低い結果となっている。	終了	「ワールドマスターズゲームズ2027関西」への参加促進を目的として始まったランニングイベントであるため、令和８年度を持って終了する。
		○障害者スポーツ教室・体験会の開催、各種障害者スポーツ大会の開催に要する経費。（県直接執行、県障害者スポーツ協会委託）	過去10年を振り返ると、令和初期において、コロナ禍にて大会が開催できず、一旦参加者が離れてしまった。5類移行を経て、近年は参加者が右肩上がりの状況である。 障害者スポーツ（大会や教室等）の参加者数 R5：1,879人 R6：2,047人 R7：2,410人	前回の長期総合計画進捗管理目標で、障害者スポーツ参加者数（年間）を定め、Ｒ８年度には4,000人を目標にしていたが、実際の参加者数は基準年であるH27年度は2,255人で、H29年度がピークの2,850人であった。近年の参加者数は右肩上がりの状況と言えるものの、長期総合計画進捗管理目標には届かないものとなっており、引き続き参加促進に取り組む必要がある。	継続	
	（イ）　スポーツを継続的に行うことによる健康増進、健康寿命の延伸、医療費の抑制が注目されています。市町村等と連携し、ラジオ体操をはじめ、シニアエクササイズや「みんなで実践！健康づくり運動ポイント事業」など、高齢者が無理なく日常的に取り組むことのできる運動やスポーツの機会を提供します。	○「出張！県政おはなし講座」に、『ラジオ体操による健康増進と地域コミュニティづくり』をテーマに登録し、県民へのラジオ体操普及に要する経費。（※県直接執行）	○「出張！県政おはなし講座」に『ラジオ体操による健康増進と地域コミュニティづくり』をテーマに登録し、ラジオ体操普及に取り組んだ。 実施状況 R5：９団体に実施（参加合計185人） R6：11団体に実施（参加合計328人） R7：４団体（参加合計49人）	積極的に事業を活用いただけるよう、各市町村や関係部署等に周知徹底を図る。	継続	
		○国民体育大会及び同近畿ブロック大会への本県選手派遣に要する経費。（※県体育協会への補助）	わが国最大のスポーツの祭典である国民スポーツ大会及び同大会近畿ブロック大会に本県選手団を派遣するため、交通費や宿泊費等を補助した。 R5：鹿児島　成績32位　派遣人数366人 R6：佐賀　成績47位　派遣人数398人 R7：滋賀　成績38位　派遣人数382人	物価高騰による影響（宿泊費の高騰など）で自治体の負担が大きくなっている。また、現在、国民スポーツ大会の在り方が見直されており、動向を注視するとともに、必要に応じ、当該事業においても見直しを行っていく。	継続	

現和歌山県スポーツ推進計画におけるスポーツ推進の具体的な方策の主な成果と課題

頁	具体的な方策 （計画本文）	期間中の事業・取組 （前回見直し時の検討資料）	期間中の主な成果	課題	今後の方向性	備考（方向性の理由など）
14	（ウ）　ワールドマスターズゲームズ2027関西の開催を契機として、マスターズスポーツに対する気運を醸成します。	○スポーツを核とした「元気な和歌山」を実現するため、「ワールドマスターズゲームズ2027関西」の開催準備及び「関西マスターズゲームズ」等に要する経費。（※関西広域連合及び県実行委員会予算）	「ワールドマスターズゲームズ2027関西」関係大会及び各地のイベント等において広報誘客活動を県内外や海外で実施した。 また、R7年度は、県内で「ワールドマスターズゲームズ2027関西」及び「関西マスターズゲームズ」の冠称大会を８競技19大会で実施した。 なお、Ｒ８年１月14日からアーリーエントリー、３月２日から一般エントリーを開始し、本県開催５競技７種目で6,986人がエントリーしている。（6/15時点）	今後は、「ワールドマスターズゲームズ2027関西」の認知度及び大会開催に向けた県民機運の醸成を図るとともに、本大会で得られたレガシーを活かし、本県の生涯スポーツの推進につなげていく必要がある。	終了	Ｒ９年５月30日(日)に「ワールドマスターズゲームズ2027関西」が終了するため。
	（エ）　障害のある人が、日常生活の中で、また身近な地域において運動やスポーツ活動に参加しやすい場づくりや障害の種類や程度に配慮した指導・支援ができる公益財団法人日本パラスポーツ協会公認パラスポーツ指導者等を発掘・養成し、スポーツを通じた社会参画を促進します。	○全国障害者スポーツ大会への選手団派遣や、各種障害者スポーツ大会の開催、県障害者スポーツ協会競技部会への活動補助に要する経費。（※県障害者スポーツ協会委託・補助）	過去10年を振り返ると、令和初期において、コロナ禍にて大会が開催できず、一旦参加者が離れてしまった。5類移行を経て、近年は参加者が右肩上がりの状況である。 障害者スポーツ（大会や教室等）の参加者数 R5：1,879人 R6：2,047人 R7：2,410人	前回の長期総合計画進捗管理目標で、障害者スポーツ参加者数（年間）を定め、Ｒ８年度には4,000人を目標にしていたが、実際の参加者数は基準年であるH27年度は2,255人で、H29年度がピークの2,850人であった。近年の参加者数は右肩上がりの状況と言えるものの、長期総合計画進捗管理目標には届かないものとなっており、引き続き参加促進に取り組む必要がある。	継続	
		○初級パラスポーツ指導員養成講習会の開催に要する経費。（※県障害者スポーツ協会委託）	指導員の新規人材確保のため、初級パラスポーツ指導員養成講習会を開催。 指導員講習受講者数 R5：15人 R6：13人 R7：15人	受講した指導員が継続的に活動し中級上級とステップアップすることや、横のつながりを活かして、更なる指導員の確保が必要。	継続	
	（オ）　既存のスポーツ施設以外にも身近なところでスポーツができる場所として、学校体育施設やオープンスペース等の有効活用を図るとともに、誰もがスポーツを行いやすくするユニバーサルデザイン化の促進等により、安全で継続可能な地域スポーツ環境の充実を推進します。また、様々なスポーツに関する知見や機会を広く県民に提供し、スポーツを「する」「みる」「ささえる」実効性を高めます。	○県立施設（県立体育館、県立武道館、和歌山ビッグ愛、和歌山ビッグホエール及び和歌山ビッグウエーブ）の運営管理及び設備改修工事に要する経費。（※県直接執行）	・指定管理者に県立施設の運営管理を行わせた。 ・空調改修などのほか、広く県民が利用しやすい施設となるようトイレの洋式化を進めるなど施設設備の改修・更新を行った。	・施設建設から長期間が経過し、施設設備の老朽化が進んでいる。 ・全国各地でアリーナの新築・改修が進む中、県立施設のスポーツ施設としての魅力や集客力が相対的に低下している。	拡充	・老朽化が進む県立スポーツ施設について、大規模改修や新築移転、統廃合など今後の施設のあり方検討を進める。
		○障害児者優先施設である県子ども・女性・障害者相談センターのプールの老朽化による建て替え工事を実施し、改設したプールを適切に運営するための経費。（※県直接執行、管理運営委託）	県子ども・女性・障害者相談センターのプールの老朽化による建て替え工事を実施した。		継続	
15	**イ．総合型クラブの育成・支援**					
	（ア）　「きのくに広域スポーツセンター」や市町村等と連携し、スポーツ関係団体をはじめとする地域団体・住民等に対して、多世代、多種目、多志向の様々な人との交流が生まれる活動を中心とした総合型クラブの啓発を効果的に行います。	○県（行政）としての明確な県内各クラブの育成方針等を周知徹底するとともに、地域のスポーツ振興に関わるスポーツ指導者の育成を実施、また、県内の地域拠点となるクラブを育成や各クラブの質の向上を図るため、県協議会の運営、県内外のクラブ間交流や連携強化を図るために要する経費。（※県体育協会委託）	総合型地域スポーツクラブ和歌山県協議会を運営 総会年1回、理事会年３回、クラブの運営を支えるクラブアシスタントマネージャー研修を実施した。	クラブの運営に関わるアシスタントマネージャー研修参加者を増加させる。	継続	

現和歌山県スポーツ推進計画におけるスポーツ推進の具体的な方策の主な成果と課題

頁	具体的な方策 （計画本文）	期間中の事業・取組 （前回見直し時の検討資料）	期間中の主な成果	課題	今後の方向性	備考（方向性の理由など）
	（イ）　総合型クラブが、幼稚園等、放課後子ども教室及び放課後児童クラブや学校部活動等と連携し、スポーツ教室や外遊びなどの機会を増やすとともに、地域で部活動に代わり得る活動の取組を支援します。	○【再掲】上記事業	－（上記のとおり）	－（上記のとおり）	－	－（上記のとおり）
	（ウ）　総合型クラブを育成・支援するために、ブロック別事業やスポーツ交流大会等の開催によるクラブ間交流を促進させるとともに、競技団体との連携による多様な指導者の確保を支援します。また、登録・認証制度の運用を通じて、総合型クラブの質的充実を図るなど、持続可能な運営体制づくりや市町村・総合型クラブ等が主催するスポーツ教室等の開催を支援することで、県民のスポーツ参加を推進します。	○【再掲】上記事業業（総合型クラブを育成するために、ブロック別会議やスポーツ交流大会等の開催によるクラブ間交流を促進）	設置済み：47クラブ（16市町） 設置準備中：５クラブ（５町） 計：52クラブ（21市町） ※Ｒ８年４月現在 登録状況 R7：県内22団体 R8：県内20団体	登録クラブの増加	見直し	登録クラブの増加は、「地域住民への認知度向上」や「社会的な仕組みとしての確立」と、それに伴う企業等とのより一層の連携が期待できる。現状、登録クラブが減少した理由として、クラブが国の登録認証制度へ登録するメリットを感じられないことがあるようである。今後、登録クラブに対してメリットと感じる施策（例えばイベント運営資金の補助事業等）を考える必要を感じる。
	（エ）　障害のある人が多様なスポーツを楽しめるクラブ運営に取り組む総合型クラブを支援することにより、障害の有無に関わらず誰もがスポーツに参画できる環境を充実させます。	○【再掲】上記事業	－（上記のとおり）	－（上記のとおり）	－	－（上記のとおり）
		○パラスポーツを知ってもらう、理解を深めてもらうとともに、スポーツを始めるきっかけを提供するための、スポーツ教室開催に要する経費。 （※県障害者スポーツ協会への委託）	過去10年を振り返ると、令和初期において、コロナ禍にて大会が開催できず、一旦参加者が離れてしまった。5類移行を経て、近年は参加者が右肩上がりの状況である。 障害者スポーツ（大会や教室等）の参加者数 R5：1,879人 R6：2,047人 R7：2,410人	前回の長期総合計画進捗管理目標で、障害者スポーツ参加者数（年間）を定め、Ｒ８年度には4,000人を目標にしていたが、実際の参加者数は基準年であるH27年度は2,255人で、H29年度がピークの2,850人であった。近年の参加者数は右肩上がりの状況と言えるものの、長期総合計画進捗管理目標には届かないものとなっており、引き続き参加促進に取り組む必要がある。	継続	
	ウ．スポーツ指導者の育成・支援					
	（ア）　スポーツのもつ楽しさや魅力等を教え、伝えることのできる指導者を育成するため、市町村や関係機関等と連携し、スポーツ指導の公認資格の取得を促進するとともに、スポーツ医・科学研究の成果を積極的に活用した研修会を実施します。	○公認スポーツ指導者養成講習会等の開催やスポーツ指導者協議会等の開催に要する経費。	・年１回のスポーツ指導者協議会（協会内「倫理審査委員会」11名を招集）を開催し、公認スポーツ指導者資格についての今後の動向等についての情報共有や、県内におけるスポーツ指導者研修、養成講習会の方向性の検討を行った。 （県スポーツ協会） ・日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格取得のための養成講習会を開催した。 （競技団体又は日本スポーツ協会からの委託委事業） 【Ｒ７実績】 公認コーチ１養成講習会　２競技 スタートコーチ（ジュニア・ユース）　２会場		継続	社会情勢を鑑みても、スポーツ指導者育成事業の継続は必要。

現和歌山県スポーツ推進計画におけるスポーツ推進の具体的な方策の主な成果と課題

頁	具体的な方策 （計画本文）	期間中の事業・取組 （前回見直し時の検討資料）	期間中の主な成果	課題	今後の方向性	備考（方向性の理由など）
		○障害者スポーツの指導・支援にあたる人材を養成するために要する経費。（※県障害者スポーツ協会への委託）	指導員の新規人材確保のため、初級パラスポーツ指導員養成講習会を開催。 指導員講習受講者数 R5：15人 R6：3人 R7：15人	受講した指導員が継続的に活動し中級上級とステップアップすることや、横のつながりを活かして、更なる指導員の確保が必要。	継続	
	（イ）　スポーツ推進委員が、「スポーツの推進のための事業の実施に係る連絡調整等」を果たせるよう、研修会等を一層充実させます。	○地域スポーツ振興の推進役であるスポーツ推進委員の資質向上に向けた、県協議会や研究協議会（新任研修会等を含む）の開催に要する経費。（※県直接執行）	・和歌山県新任スポーツ推進委員研修を開催し講習及びグループワークによる、スポーツ推進委員の基本的役割の習得等の機会を提供した。 【参加者数】 R5：29人 R6：23人 R7：36人 ・和歌山県スポーツ推進委員研究協議会を開催し講演会及び実技研修等を実施し、各地方で今後の活動について参考になる内容を共有した。 【参加者数】 R5：58名 R6：35人 R7：近畿大会実施により未実施 ・令和8年2月14～15日に近畿スポーツ推進委員研究協議会を紀南文化会館等で開催した。ロンドンオリンピックカヌースプリント日本代表の坂本氏による基調講演と、「市街地ブラ歩き」「低山ウォーク」等の5種類の分科会により、近畿各府県のスポーツ推進委員の交流と連携の強化した。 【参加者数】 940人	スポーツ推進委員の高齢化と後継者不足 引き受けてくれる人が少ない 地域住民の認知度が低い 推進委員活動の温度差等 （公益社団法人全国スポーツ推進委員連合資料より）	継続	
16	**3　世界の舞台で活躍できる競技者の発掘・育成・強化**					
18	**ア．ジュニア期からの一貫した強化体制の確立**					
	（ア）　ジュニア強化を重点化し、各競技団体に対して一貫指導体制の構築の徹底を図ります。	○国民体育大会の入賞やオリンピック等の日本代表選手の輩出などトップアスリートを育成するため、ジュニア選手発掘に始まるジュニア・少年・成年の一貫指導体制による計画的・戦略的強化に要する経費。	国スポ実施競技団体に対して、トップアスリート育成事業費（ジュニア・少年・成年強化事業）補助金を交付するとともに、ジュニア育成担当者研修会を実施した。 【補助金交付額・研修会開催数、参加人数】 R5：1,020,98千円・１回、13人 R6：　89,865千円・１回、28人 R7：　98,447千円・３回、89人		継続	研修会の実施により、ジュニア指導者の資質向上はもとより、競技を越えた指導者間の交流などの副次的な効果を見受けられたため、継続していくことが必要である。 また、ジュニア強化の重点化を起点とする一貫した育成・強化を継続するためには、補助金の交付を同水準で維持することが必要である。

現和歌山県スポーツ推進計画におけるスポーツ推進の具体的な方策の主な成果と課題

頁	具体的な方策 （計画本文）	期間中の事業・取組 （前回見直し時の検討資料）	期間中の主な成果	課題	今後の方向性	備考（方向性の理由など）
	(イ)　「ゴールデンキッズ発掘プロジェクト」等のタレント発掘事業を推進し、各競技団体とより一層連携した競技体験プログラムを実施するなど、将来トップアスリートとして活躍が期待できる子供の発掘・育成・強化を図ります。	○小学校３・４年生からトップアスリートを目指す優れた素質を有する人材を発掘し、「ゴールデンキッズ」として認定し、計画的・継続的に育成プログラム実施に要する経費。（※一部県体育協会への委託）	年間を通して、ゴールデンキッズに各種プログラム(食育、身体、アスリート等)を実施した。 ※R5からは新規募集を中止。 【プログラム実施回数】 R5：30回(６・５・４年生) R6：21回(６・５年生) R7：15回(６年生) R5から新規募集を中止したゴールデンキッズ発掘プロジェクトの後継事業として、スポーツマッチングプロジェクト～やっＣｈａる!!～を新たに立ち上げ、小学３年生～中学２年生までの児童・生徒が様々な競技を体験することで、自分の運動機能の特性や適性を発見する事業を開始した。 【測定会参加者数】 R6：440名 R7：196名	『ゴールデンキッズ発掘プロジェクト』から『やっＣｈａる!!』へ事業を変更し、より多くのこども達が「好き×適性」のある競技に出会う機会を提供するとともに、トップアスリートを目指す環境整備を行っていくことが必要である。	継続	全国で49地域（県、郡、市、町）で展開されているタレント発掘・育成事業（TID）は、独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC）が統括しており、その事業価値は高いと言えるため、事業継続が必要である。
	(ウ)　全国から高い競技力を有する中学校の選手やチームを招き、県内の強豪チームと練習会を開催するなど、ジュニア期から高い競技レベルに触れる機会を設けます。	○国体会場地となった市町村で、当該競技の他県中学校強豪チーム（選手）を招へいし、合同練習会を開催するために要する経費。（県体育協会への補助）	R5年度は、４市町村５競技６回の実施実績があり、全国レベルの中学生及びトップレベルのコーチを招へいし事業を実施した。 【市町村】橋本市、紀の川市、上富田町、那智勝浦町 【競技団体】ソフトボール、ハンドボール、サッカー、レスリング	開催市町村及び競技団体が固定化し、実施内容についても形骸化しつつある。	終了	R5年度をもって、事業を終了した。
	(エ)　紀の国わかやま国体開催後も引き続き、競技団体、企業及び市町村の行政関係機関との連携を図り、選手強化の施策を実施します。	○競技力維持向上施策（ジュニア選手育成・少年選手強化、成年選手強化、指導者養成、スポーツ医・科学サポートの重点施策を中心に、高い競技力を維持・向上するための取組）	横断的かつ包括的な競技力維持向上施策の実施により、本県の国民スポーツ大会男女総合成績は以下の結果となった。 R5：鹿児島国体　32位 R6：佐賀国スポ　47位 R7：滋賀国スポ　38位	紀の国わかやま国体2015で活躍した成年選手の高齢化及び少子化によるジュニア選手層の希薄が進み、R6の佐賀国スポでは、2004年埼玉国体以来20年ぶりの最下位となった。	継続	スポーツ基本法に定められている、地方公共団体は競技水準の向上等について、優秀なスポーツ選手の育成等を行う責務に基づき、各競技力維持向上施策を関係機関と連携し、展開していく必要があるため。
19	**イ．スポーツ指導者の発掘・養成と活用**					
	(ア)　中央競技団体等の優秀な指導者・コーチ等を招聘し、高度な技術や戦術・戦略の習得に努め、県内指導者の資質向上とともに競技者の競技力向上を図ります。	○高度な技術や戦術を修得し、県内指導者の資質向上を図るために、中央競技団体等の優秀な指導者・コーチを招聘するための経費（※県体育協会への補助）	県内指導者の資質向上を図るために、中央競技団体等の優秀な指導者・コーチを招聘するための経費を補助した。 【事業実施回数】 R5：75回 R6：61回（参加者延べ1,837人） R7：71回（参加者延べ2,237人）		拡充	予算の拡充を検討

現和歌山県スポーツ推進計画におけるスポーツ推進の具体的な方策の主な成果と課題

頁	具体的な方策 （計画本文）	期間中の事業・取組 （前回見直し時の検討資料）	期間中の主な成果	課題	今後の方向性	備考（方向性の理由など）
	（イ）　「チーム和歌山コーチ塾」などのスポーツセミナーやスポーツ指導者研修会を開催し、指導者の資質向上を図るとともに、独立行政法人日本スポーツ振興センター（ＪＳＣ）、公益財団法人日本オリンピック委員会（ＪＯＣ）及び日本パラリンピック委員会（ＪＰＣ）が開催する指導者研修会等へ派遣します。	○各競技の中心的指導者にコーチングスキルを向上させるシステムを構築する。併せて、現在優秀な競技者を優れた指導者として養成し、活用するシステム構築に要する経費（※県体育協会への補助）	チーム和歌山コーチ塾やジュニア育成担当者会議など、スポーツ指導者を対象とした研修会を開催し、指導者の資質向上を図った。 【事業実施回数】 R5：７回（参加者数延べ175人） R6：７回（参加者数延べ233人） R7：６回（参加者数延べ156人）	受講者の減少により研修会の見直しが必要	見直し	「チーム和歌山コーチ塾」はR8に節目の第50回をもって終了する予定であるが、指導者の資質向上を図るための方策については、今後も継続して検討が必要である。
	（ウ）　指導者としての専門能力を高めるため、公益財団法人日本スポーツ協会等の公認指導者資格の取得を促進します。	○【再掲】上記事業	県内の競技別指導者資格認定者 （いずれも10月1日現在） R5：1,558人 R6：1,628人（昨年度比 70人増） R7：1,651人（昨年度比 23人増）	公認指導者資格取得には受講料、テキスト代、旅費及び資格認定料など高額負担が重荷となるケースが多い。	拡充	公認指導者資格に係る経費の補助を検討中
	（エ）　体育指導員や優れた指導力を有する退職した教職員等を強化拠点校等へ積極的に派遣します。	○専門的技能及び知識・指導実績を有し、かつ学校教育に関する見識を有する退職した教職員等のエクセレントコーチの派遣に要する経費。（※県直接執行）	R5年度は、８名のエクセレントコーチを各拠点に配置した。	R5年度で事業開始から18年が経過し、全国大会優勝者を輩出するなど多くの実績を重ね、一定の成果が得られたため、事業を終了した。	終了	R5年度をもって、エクセレントコーチ設置事業を終了した。 なお、体育指導員として採用された職員については、引き続き高等学校部活動等への派遣を継続する。
	（オ）　次世代の強化を担う指導者を強化練習会及び県外遠征や全国大会等に帯同させ、指導技能を学ばせることにより、優れた指導者を養成するシステムを構築します。	○次世代の強化を担う指導者を「きのくにコーチ」に優れた指導力を養成させるため、強化練習会や県外遠征等に帯同するための経費（※県体育協会への補助）	次世代の強化を担う指導者を養成するために、国民スポーツ大会実施競技団体からの推薦をもとに「きのくにコーチ」を認定し、全国各地で開催される研修会への参加及び各種全国大会や、優秀な指導者の下での短期研修等への派遣に係る経費を補助した。 【認定指導者数】 R5：16人（事業回数17回） R6：８人（事業回数23回） R6：６人（事業回数17回）		継続	大会帯同や優秀指導者の下での短期研修にとどまらず、独立行政法人日本スポーツ振興センター（JSC）、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）、公益財団法人日本スポーツ協会（JSPO）及び日本パラリンピック委員会（JPC）が開催する指導者研修会等へも積極的に派遣する。
	ウ．高度なスポーツ医・科学分野の支援					
	（ア）　公益社団法人和歌山県体育協会スポーツ医・科学委員会が中心となり、スポーツ医・科学分野のサポートの充実を図ります。	○紀の国わかやま国体に向けて構築したスポーツ医・科学サポートの内容や連携関係を継承する、トレーナー・ドクター派遣、マルチサポート、医・科学サポートに要する経費。（※県体育協会への委託）	医科学サポート（医科学チェック、医科学支援、医科学講習会）を以下のとおり実施した。 ・医科学チェック Ｒ５：　922人/年 Ｒ６：1,020人/年 Ｒ７：1,042人/年 ・医科学支援 Ｒ５：1,660時間/年 Ｒ６：1,337時間/年 Ｒ７：　997時間/年 ・医科学講習会 Ｒ５：１時間/年 Ｒ６：71.25時間/年 Ｒ７：85.25時間/年	げんき開発研究所での高度医・科学サポートを受けることができるが、立地の関係により、すべてのアスリートへの平等な機会の提供へは至っていない。研究所スタッフによる出張測定や講習会を実施はしているが、採血・最大酸素摂取量測定等は看護師派遣や専門機材が必要なため、難しいのが現状である。	見直し	スポーツ庁が提示している第３期スポーツ基本計画のなかで、医・科学サポート事業を受けられるこどもたちを、現在の国スポアスリートレベルから、運動部活動レベルまで拡大するよう提言されている。そのため、需要がある項目に集中する等、事業再編は行うが完全廃止は難しい。

現和歌山県スポーツ推進計画におけるスポーツ推進の具体的な方策の主な成果と課題

頁	具体的な方策 （計画本文）	期間中の事業・取組 （前回見直し時の検討資料）	期間中の主な成果	課題	今後の方向性	備考（方向性の理由など）
20	（イ）　選手や指導者が高度なスポーツ医・科学サポートを受けられるよう、和歌山県スポーツドクター連絡協議会や和歌山県アスレティックトレーナー連絡協議会、その他関係機関との連携を図りつつ、ネットワークを更に充実させます。	○関西経済連合会による医科学支援事業との連携	関西経済連合会が主催する医・科学サポートコンソーシアム事業へゴールデンキッズ修了生が参加し、関西医・科学サポートプログラム対象選手に選出された。 また、県アスレティックトレーナー連絡協議会との連携協力により、国スポ実施競技団体へアスレティックトレーナーを配置し、各競技団体が実施する強化練習会や国スポ関連事業へ競技力向上及び障害予防を目的にトレーナーを派遣した。 【トレーナー派遣回数】 R5：330回 R6：305回 R7：385回	トレーナー派遣事業の要望は年々高まっているが、派遣可能トレーナー数と日程的な問題で現状以上に事業を拡大して派遣を行うことは難しい。 また、本県のトレーナー派遣事業は他府県と比較して充実しているが、選手の競技力向上等の、目に見えた実績やエビデンスには乏しい。	継続	スポーツ庁が提示している第３期スポーツ基本計画のなかで、医・科学サポート事業を受けられるこどもたちを、現在の国スポアスリートレベルから、運動部活動レベルまで拡大するよう提言されている。そのため、事業規模としては現状維持を求める。
	（ウ）　女性アスリートを支援するため、女性特有の課題解決に向けた研修会や専門家（産婦人科医、栄養士等）による個別相談等を更に充実させます。	○【再掲】上記「マルチサポート」女性アスリートサポートに要する経費。（※県体育協会への委託）	・医科学サポート「マルチサポート　女性アスリート支援」実績 R5：栄養サポートを中心に包括的に実施 R6：２回（剣道競技） R7：０回 ・指導者、選手及び保護者を対象とした女性アスリート講習会（旧女子委員会） R5：１回 R6：１回 R7：０回	女性の三主徴に代表されるように、女性アスリートが抱える諸問題は多岐にわたるため、当該問題の専門家を配置することが困難である。	継続	国民スポーツ大会等、本県の競技力を向上するためには、女性アスリートの活躍が不可欠である（以下、直近３年間の国民スポーツ皇后杯順位を参照）ため、女性アスリートへの支援は継続的な実施が必要である。 R5：32位（天皇杯32位） R6：44位（天皇杯47位） R7：40位（天皇杯38位）
	エ．アンチ・ドーピング活動の推進					
	（ア）　国民体育大会等へ出場する選手や監督を対象に「アンチ・ドーピング研修会」を開催するなど、アンチ・ドーピングに関する情報の発信を積極的に行います。	○国民体育大会等へ出場する選手や監督を対象に「アンチ・ドーピング研修会」の開催経費（※県体育協会への補助）	和歌山県薬剤師会と協力し、４１競技団体へスポーツファーマシストを配置。常に薬の使用に関して相談できる体制を構築。また事前にアンケート調査を実施し、禁止薬物の服用がないかの確認を実施。また国民スポーツ大会結団壮行式でのアンチドーピング講習会の実施した。 【違反薬物の未然防止件数】 R5：５件 R6：５件 R7：４件	少年種別の選手は3年サイクルで完全に入れ替わるため、アンチドーピング意識が希薄である。そのため同様の内容であっても繰り返し実施する必要があるが、指導者側は継続して受け続けるため、また同じ内容であると感じ、講習会を受講しない場合がある。	継続	国民スポーツ大会でのアンチドーピング教育の徹底についてはR8度により、エントリー時に教育を受講完了している必要があるなど厳格化された。そのため、本啓発事業は継続することが求められる。
		○【再掲】上記「マルチサポート」アンチ・ドーピングサポートに要する経費。（※県体育協会への委託）	－（上記のとおり）	－（上記のとおり）	継続	－（上記のとおり）
	（イ）　競技団体に配置されたアンチ・ドーピングに関する知識を有したスポーツファーマシストと選手・監督との連携を強化し、いつでも相談できる体制を確立します。	○【再掲】上記「マルチサポート」アンチ・ドーピングサポートに要する経費。（※県体育協会への委託）	－（上記のとおり）	－（上記のとおり）	継続	－（上記のとおり）

現和歌山県スポーツ推進計画におけるスポーツ推進の具体的な方策の主な成果と課題

頁	具体的な方策 （計画本文）	期間中の事業・取組 （前回見直し時の検討資料）	期間中の主な成果	課題	今後の方向性	備考（方向性の理由など）
	（ウ）　学校現場においてフェアプレーの精神に基づいたアンチ・ドーピングの教育を推進します。	○中学校保健体育科の体育・保健分野の授業や、高等学校保健体育科体育理論領域の授業を通して、アンチドーピング教育を推進。	【R7年度実績】 保健体育授業において、フェアプレイの精神につい取上げ、ドーピングは、フェアプレイの精神に反し、スポーツの文化的価値を失わせることであると指導している。		継続	
	オ．スポーツ界のガバナンスの強化					
	（ア）　スポーツ団体の組織運営の強化と透明性の向上が図られるよう、指導を徹底します。 （イ）　スポーツ団体の運営にアスリートの意見を反映する仕組みの導入を促進します。 （ウ）　スポーツ団体役員等への女性の積極的な登用を促進します。	○スポーツイ ンテグリティの確保が重要であるため、スポーツ活動や研修会等を通じて、スポーツの土台であるフェアプレーの精神や、公平・公正なスポーツ環境を整備する。（※県体育協会による情報提供、指導等）	県スポーツ協会主催によるコンプライアンスに関する研修会を実施した。 R5：１回 R6：０回 R7：０回	前述の「チーム和歌山コーチ塾」同様に受講者の減少と集合対面形式での研修会の開催が困難であることが課題。	継続	集合対面形式の研修会の開催は一部困難であるが、スポーツ課の競技担当職員が各社会体育団体に対して、組織ガバナンスに関する指導助言を適宜行うことにより方策を実現する。
22	**4　全国大会・国際大会の開催及び国際競技大会等に係るキャンプの誘致による県民のスポーツに対する意識や関心の向上と県内各地域の活性化**					
25	**ア．トップレベルの競技スポーツを身近で観戦したり応援したりする機会の充実**					
	（ア）　本県でプロスポーツの公式戦等が継続して開催されるよう、積極的に支援するとともに、大会やキャンプの開催を支えるスポーツボランティアの人材バンクの立ち上げを進め、「みる」「ささえる」スポーツ活動の場の創出に取り組みます。	○プロスポーツの公式戦の継続的開催や、県内で行う国内外ナショナルチームのキャンプをサポートするとともに、トップレベルスポーツ選手との交流を通じて、県民の「みる」「支える」スポーツに対する意識や関心の向上、促進を図るために要する経費。（※県・当該市町村負担）	・県内でのプロスポーツ等の公式戦開催に係る実績 R5：プロ野球ウエスタン・リーグ公式戦 （ｵﾘｯｸｽ・ﾊﾞﾌｧﾛｰｽﾞ VS福岡ｿﾌﾄﾊﾞﾝｸﾎｰｸｽ） 観客動員数1,746名 2023-24 V.LEAGUE 和歌山大会 （日本製鉄堺ﾌﾞﾚｲｻﾞｰｽﾞ VSﾊﾟﾅｿﾆｯｸﾊﾟﾝｻｰｽﾞ） 観客動員数4,482名（2日間合計） R6：プロ野球ウエスタン・リーグ公式戦 （ｵﾘｯｸｽ・ﾊﾞﾌｧﾛｰｽﾞ VS福岡ｿﾌﾄﾊﾞﾝｸﾎｰｸｽ） 観客動員数2,341名 2024-25 V.LEAGUE 和歌山大会 （日本製鉄堺ﾌﾞﾚｲｻﾞｰｽﾞ VS東京ｸﾞﾚｰﾄﾍﾞｱｰｽﾞ） 観客動員数3,725名（２日間合計） R7：プロ野球ウエスタン・リーグ公式戦 （ｵﾘｯｸｽ・ﾊﾞﾌｧﾛｰｽﾞ VSくふうﾊﾔﾃ静岡） 観客動員数1,087名 2025-26 V.LEAGUE 和歌山大会 （日本製鉄堺ﾌﾞﾚｲｻﾞｰｽﾞ VS大阪ﾌﾞﾙﾃｵﾝ） 観客動員数7,641名（２日間合計） ・国内外のナショナルチームのスポーツキャンプを県内体育施設等に誘致するとともに、県民との交流事業を実施し、スポーツに対する意識や関心の向上、促進を図ることができた。 【スポーツキャンプ誘致件数】 R5：５件 R6：６件 R7：５件	スポーツキャンプ誘致にあたっては、国内外のチーム問わず予定が流動的なケースが多くあり、場当たり的に依頼や提案が必要となることも珍しくない。そのため、常に情報収集が必要となるとともに、中央競技団体との関係性を構築しておくことも肝要である。	継続	引き続き積極的な誘致活動を展開していく。
	（イ）　国内外のナショナルチーム等のキャンプ誘致に取り組み、県民との交流及び地域の活性化を図り	○【再掲】上記事業	－（上記のとおり）	－（上記のとおり）	継続	－（上記のとおり）

現和歌山県スポーツ推進計画におけるスポーツ推進の具体的な方策の主な成果と課題

頁	具体的な方策 （計画本文）	期間中の事業・取組 （前回見直し時の検討資料）	期間中の主な成果	課題	今後の方向性	備考（方向性の理由など）
	ます。キャンプを実施した地域における当該競技の聖地化を目指し、全国大会等の誘致によるスポーツイベントの継続開催を推進します。	○本県における競技力の向上、選手、役員及び観客等が来県することによる地域の活性化を図るために要する経費（※文化学術課：競技団体等への補助）				
	（ウ）　和歌山セーリングセンターをはじめ、県内競技施設での全国大会・ 国際大会の開催または招致に取り組みます。	○全国高等学校総合体育大会ヨット競技大会（令和１６年度まで固定開催）に要する経費。（※実行委員会への補助）	【Ｒ７年度実績】 全国から多くの選手、監督及び大会関係者の来県による地域活性化や、高校生相互の親睦を深め、心身ともに健全な青少年の育成に寄与している。また、固定開催となってから10年以上経過し、地域に定着したイベントとなっており、地元ジュニア層を主体とした選手の競技力の向上やシビックプライドの醸成につながる事業となっている。 （参考） 1　R7大会参加者　合計　552名 観客数　延べ 1,050名 2　R7大会では本県選手がILCA6級で準優勝	仮設浮上式斜路桟橋や運営艇用浮桟橋の老朽化やチャーター艇の経年劣化に伴い維持管理費の増加している。	継続	
		○【再掲】上記事業	－（上記のとおり）	－（上記のとおり）	－	－（上記のとおり）
	（エ）　近畿府県市や関西広域連合と連携・協力して取り組む国際競技大会の共同招致活動に積極的に参画します。	○【再掲】スポーツを核とした「元気な和歌山」を実現するため、「ワールドマスターズゲームズ2027関西」の開催準備及び「関西マスターズゲームズ」等に要する経費。（※関西広域連合及び県実行委員会予算）	－（上記のとおり）	－（上記のとおり）	－	－（上記のとおり）
26	**イ．国際競技大会等のキャンプ候補地としての効果的なアピールと更なる優位性の向上**					
	（ア）　紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会のために整備された優れた競技施設や関西国際空港・南紀白浜空港への好アクセス等、キャンプ地としての優位性を国内外に向けて積極的にアピールします。	○【再掲】上記事業	－（上記のとおり）	－（上記のとおり）	－	－（上記のとおり）
	（イ）　本県でキャンプを実施するナショナルチーム等に対し県、市町村及び民間団体と連携・協力し、そのチームのキャンプ目的やニーズに合致したトレーニング環境を提供します。	○【再掲】上記事業	スポーツコミッション団体の南紀エリアスポーツ合宿誘致推進協議会との連携を図ることができた。	－（上記のとおり）	継続	関係団体と連携して引き続き積極的な誘致活動を展開していく。
	（ウ）共生社会の実現に向け、スポーツの価値やオリンピック・パラリンピックの意義を学ぶ「オリンピック・パラリンピック教育」をJOCと連携し、推進します。	○中学校３年生の保健体育における体育理論の中で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義についての学習に取り組むために要する経費。（※一部ＪＯＣへの委託）	【Ｒ７年度実績】 オリンピアンによる「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えるオリンピック教室の開催		見直し	企画政策局スポーツ課に移管し、事業検討

和歌山県総合計画の概要

長期構想

資料 5-3

計画の特徴

1.長期的な展望と機動性を兼ね備えた二層構造の計画

2040 年を展望した「長期構想」と、5 年間で行う「実施計画」の二層構造

2.社会の潮流（大きな変化・リスク）に真正面から向き合う計画

将来的に大きな変化やリスクを及ぼすことが予測される社会の潮流への対応に焦点

3.未来起点で描く計画

蓋然性の高い未来を分析・予測し、直視した上で、具体的なアクションを構想

2040年に実現したい和歌山の将来像

○人口減少や気候変動に適応した、持続可能で心豊かな和歌山

○個人が尊重され、あらゆる分野で個性輝く和歌山

〈将来像を実現するための６つの政策の柱〉

1 **海外の活力を取り込む**
世界との結びつきを深め、多文化共生の社会を築きます。

2 **人への投資を強化する**
子育てを応援し、多様な学びの場をつくり、能力や意欲に応じて個人の可能性を拡げます。

3 **産業の創造力と生産性を高める**
脱炭素先進県をめざし、地域の特性を活かした産業政策を進めます。

4 **つながりを拡げて、暮らしを守る**
地域の魅力に磨きをかけ、域内外との交流と支え合いの力で暮らしを守ります。

5 **誰にでも居場所がある社会をつくる**
柔軟な働き方やスポーツ、文化芸術活動などを通じて、自分らしさを発揮できる環境をつくります。

6 **安全な社会基盤を築き、さまざまな脅威から命を守る**
資源制約を乗り越え、災害や犯罪に対して強い地域をつくります。

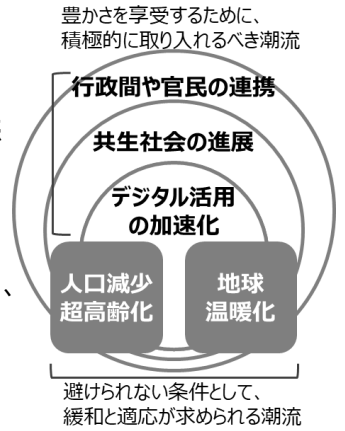
計画の期間

長期構想：2040 年を展望
実施計画（前期）：2026年度～2030年度

社会の潮流に適応するための『鍵』となる考え方

1 人口減少・超高齢化
人口減少を避けられない条件と捉え、人口増加期につくられた社会・経済システムを、人口動態に適応したものへと再構築し、質的な強靱化を進める

2 地球温暖化
脱炭素・自然共生の早期実現を、産業の競争力や地域の価値そのものを高める要素と捉え、生活や産業における構造転換を進める



3 デジタル活用の加速化
デジタル化を、単なる効率化の手段とせず、産業や地域の活性化、一人ひとりの幸福追求に欠かせない要素と捉え、積極的に取り入れて新たな価値創造を進める

4 共生社会の進展
多様な人々（女性や高齢者、障害のある人、性的少数者、外国人など）の活躍を、その人の幸福だけでなく、新しい価値やイノベーションを生む源泉と捉え、誰もが個性を生かして自分らしさを追求できる場所として選ばれる地となることを進める

5 行政間や官民の連携
県と市町村の二層性を柔軟に捉えるとともに、官民の協働が「公共」にイノベーションを生み、皆で共創する「公共」こそが、持続的な公共を創るという考えへと移行を進め、行政のあり方を見直す

和歌山県総合計画の概要

実施計画

〈 施策体系 〉

1 海外の活力を取り込む

（１）グローバル人材の育成
（２）国際化を踏まえた産業振興
（３）外国人材の活躍推進

2 人への投資を強化する

子育て

（１）安心してこどもを産み育てられる環境づくり
（２）こども見守りネットワークの構築

教 育

（３）学習者主体の教育への転換
（４）学校配置と協働的な学びの確保
（５）産業人材の育成
（６）日本語指導体制の構築
（７）インクルーシブな教育環境の整備
（８）多様な学びの場の確保

3 産業の創造力と生産性を高める

商工業

（１）成長産業の開拓
（２）産業の脱炭素化に向けた環境整備
（３）脱炭素社会実現に向けた行動変容の推進
（４）県内企業の成長力強化
（５）産業人材の育成・確保
（６）多様で柔軟な働き方の推進

農林水産業

（７）農地集積、農業経営の規模拡大の促進
（８）収益性を高める農業生産体制の構築
（９）循環型林業の実践
（10）林業の労働環境向上
（11）紀州材の利用拡大
（12）水産業の経営基盤強化
（13）水産物の販路拡大

観光業

（14）持続可能な観光地域づくり

4 つながりを拡げて、暮らしを守る

地域づくり

（１）拠点形成とネットワークによる機能補完
（２）広域交通ネットワークの構築
（３）広域連携による地域運営の推進
（４）持続可能な地域をめざしたつながりの構築
（５）空き家対策の推進

地域資源

（６）自然共生社会の実現
（７）地域資源の維持・継承

医療・福祉

（８）自主的な健康行動の定着促進
（９）質の高い医療提供体制の構築
（10）持続可能な介護提供体制の構築
（11）地域で安心して暮らせる体制の構築

5 誰にでも居場所がある社会をつくる

居場所づくり

（１）多世代交流拠点の形成
（２）スポーツ・文化芸術活動の環境整備
（３）多様で柔軟な働き方の推進

人権尊重

（４）人権尊重社会の実現

6 安全な社会基盤を築き、さまざまな脅威から命を守る

防災減災・県土強靭化

（１）災害から多くの命が救われる社会の実現
（２）迅速な救助と早期復旧・復興に資する災害対応力強化
（３）災害に強いインフラ整備
（４）ハード・ソフトが一体となった事前防災
（５）持続可能なインフラメンテナンスの実現

治安・交通安全

（６）治安・交通安全の向上

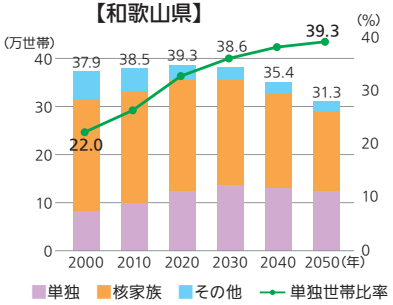
5 誰にでも居場所がある社会をつくる

柔軟な働き方やスポーツ・文化芸術活動などを通じて、自分らしさを発揮できる環境をつくります。

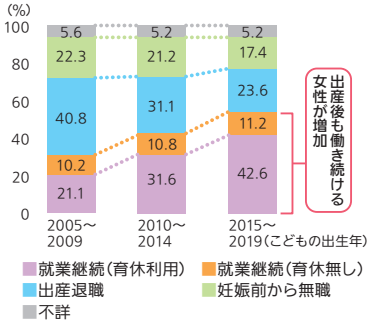
〈現在の延長線上の予測される未来〉

- 世帯構成の変化に伴い、日常生活における人とのつながりや支えの乏しい単独世帯が増加するとともに、地域コミュニティの希薄化が進み、社会的孤立が世代を超えて拡大する
- 生涯学習やスポーツ・文化芸術活動の参加者・指導者が減少し、活動の拠点となる施設・利用環境、団体・ネットワークの維持が困難になり、活動が縮小する
- 生徒の減少に伴い、学校単位での部活動の運営が困難になるとともに、地域の活動拠点や団体の活動が縮小すれば、地域展開の受け皿も確保できない地域が出現する
- 高齢化の進行や共働き世帯の増加等により、性別を問わず子育てや介護と仕事との両立の必要に迫られるなど、働き方のニーズが多様化する一方、本県の産業界がそれら変化に対応できなければ、労働者の心身にかかるストレスが増大する
- 女性やこども、障害のある人に対する人権侵害や同和問題など様々な人権問題が完全な解決に至らない中、さらにかつては社会的理解が十分でなかったために問題視されていなかった性的少数者への偏見など、新たな人権問題が顕在化する
- デジタル活用の加速化により、顔の見えない関係が増え、人とふれあう機会が減少するとともに、様々なコンテンツを悪用した誹謗中傷や差別による人権侵害が続く

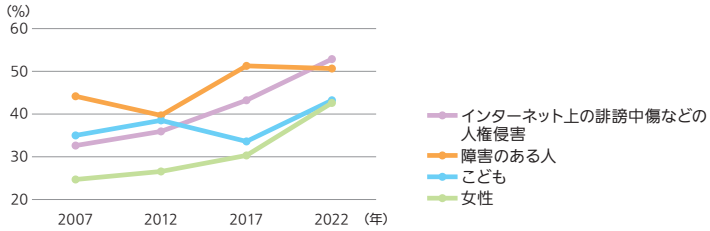
図表77　家族類型別の一般世帯数の見通し【和歌山県】



図表78　第1子出産前後の妻の就業経歴の変化【全国】



図表79　関心のある人権課題の推移(複数選択可)【全国】



〈2040年にめざす姿〉

- こどもが身近な地域において安全で安心して過ごせる居場所づくりを進めるとともに、学校教育とこどもの居場所との連携強化や学校の空き教室の活用も含めた社会教育施設の検討など、時代の変遷や地域のニーズに応じて生涯学習のあり方を見直すことで、地域の人と人、学びと活躍の場がつながり、多世代にわたって交流が深まる環境が各地域で形成されている
- スポーツ・文化芸術活動の拠点(施設のあり方)が広域的な視点(県・市町村・民間施設を含め)で環境整備され、指導者やサポート人材の発掘・育成・ネットワークづくりとともに、デジタル技術が有効に活用されることで、地域や時間等の制約を越えて、県民が広く活動に親しめている
  その活動が充実することで、身近なコミュニティや部活動に代わる活動の場として機能するなど、課題解決の一つの手段となっている
- 業種や企業規模を問わず、デジタル技術の活用により業務の効率化が図られるとともに、場所や時間にとらわれない柔軟な働き方が浸透することにより、労働者の心身の負担が軽減され、可処分時間が十分に確保される労働環境が整っている
- 新たな人権問題やデジタルコンテンツを悪用した人権侵害の発生リスクが高まる中にあっても、それらの変化に適応し、学校や企業等と連携して人権教育・啓発を充実させるとともに、人権に関する相談員の資質の向上や、インターネット上の差別や誹謗中傷などの人権侵害情報の拡散防止、関係団体等と連携した被害者支援の体制強化に取り組むなど、救済体制を整備することで、人権が尊重され、生きていることそのものの価値を実感できる社会が実現している

社会教育施設:地域住民が生涯にわたって学び続けることを支援するための施設。主に公民館や生涯学習センター、図書館、博物館などが含まれる

居場所づくり

（2） スポーツ・文化芸術活動の環境整備

〈2040年にめざす姿〉

▶スポーツ・文化芸術活動の拠点（施設のあり方）が広域的な視点（県・市町村・民間施設を含め）で環境整備され、指導者やサポート人材の発掘・育成・ネットワークづくりとともに、デジタル技術が有効に活用されることで、地域や時間等の制約を越えて、県民が広く活動に親しめている
その活動が充実することで、身近なコミュニティや部活動に代わる活動の場として機能するなど、課題解決の一つの手段となっている

〈5年間で実施する主な施策〉

①県民のスポーツ・文化芸術に対する関心の喚起・参加機会の確保

- 県民のスポーツへの関心を高めるため、スポーツ体験会を県内各地で開催するとともに、知名度の高いプロスポーツチームの試合や、国際大会（2026年アジア競技大会：愛知県）等をターゲットにした国内外ナショナルチームの事前合宿の誘致を推進
- 和歌山発の若者文化の形成と地域社会の活性化を図るため、デジタルクリエイターのコミュニティによる新コンテンツ制作活動を支援するとともに、誰もがeスポーツ等のデジタルスポーツやデジタルエンターテインメントを楽しめる機会を創出
- 音楽や美術など多種多様な文化芸術への関心を高めるため、学校訪問による芸術家との交流や、地域での音楽・演劇・ダンス・伝統芸能等の公演を通じ、県民が質の高い文化芸術を鑑賞する機会を充実

②スポーツ・文化芸術活動の拠点となる施設の整備

- 国際大会や全国大会等の大規模な大会の開催など、多様なスポーツ機会を創出するため、老朽化が進む県立体育館、紀三井寺公園陸上競技場・野球場などの施設について、そのあり方を検討し改修等を進めるなど、スポーツ活動の拠点となる施設の機能確保を推進
- 質の高い文化芸術活動に触れる機会を提供するため、県民文化会館の大規模改修等、文化芸術活動の拠点となる公共ホールの機能確保を推進
- 文化振興・観光振興・地域活力向上の好循環を創出するため、県立自然博物館の展示・収蔵や防災の機能を高めるリニューアルを現地で行うほか、県立博物館施設において、地域の歴史・特色を活かした魅力の向上を図るなど、文化観光の拠点となる機能強化を推進

③地域の実情に応じた学校部活動の円滑な地域展開

- 地域でのスポーツ・文化芸術活動を活性化し、多世代交流の場を増やすため、地域ニーズの把握や課題の解決に取り組む市町村を支援するとともに、指導者等の発掘・育成・マッチング支援の強化等により、地域クラブの充実を図るなど、こどものスポーツ・文化芸術活動を地域全体で支えていく取組を推進
- 家庭の経済事情や地域の実情等によるスポーツ・文化芸術に係る活動・体験の格差解消と地域クラブの安定的な運営を実現するため、生徒の地域クラブ活動参加にかかる費用負担の軽減等を推進



スポーツ基本法及びスポーツにおけるドーピングの防止活動の推進に関する法律の一部を改正する法律の概要

趣　旨

スポーツ基本法の制定から14年、スポーツを取り巻く社会環境は大きく変化。健康長寿社会や共生社会の実現、地域や経済の活性化、デジタル化の中での人との豊かなつながりなど、スポーツを通じた社会課題の解決に期待が高まっている現状に対応するとともに、ウェルビーイングの向上に向け、スポーツ権の実質化を図る観点から、所要の改正を行う。

1．スポーツ基本法

概　要

一　前文

⑴スポーツに親しむことのできる機会の確保等（※基本理念にも規定）、⑵多様な国民一人一人の生きがい及び幸福の実現等（〃）、⑶スポーツと文化芸術等の他の分野との連携、
⑷スポーツの果たす役割における、いわゆる「する」「見る」「支える」「集まる」「つながる」の明示

二　基本理念

⑴スポーツによる地域振興の推進、⑵スポーツによる健康で活力に満ちた長寿社会の実現
⑶スポーツによる共生社会の実現、⑷国際的な規模のスポーツの競技会の例示の追加

三　スポーツ団体の努力等

・スポーツ団体は、その運営基盤を強化し、健全な運営の確保を図るよう努めるものとすること。
・国等が連携を図る関係者として、スポーツ、文化芸術その他の分野の民間事業者の明記

四　地方スポーツ推進計画

・都道府県及び市町村の教育委員会等が共同して定めることができる旨の明記
・スポーツに関連する他の計画と一体のものとして定めることができる旨の追加

五　基本的施策

1　スポーツの推進のための基礎的条件の整備等

⑴まちづくりとの一体的なスポーツ施設の整備等（スポーツコンプレックス）
⑵スポーツ事故の防止等に係るスポーツの実施のための環境整備及び気候の変動への対応についての留意
⑶スポーツに関する諸科学の例示の追加
⑷スポーツの推進に寄与する情報通信技術の活用のための環境の整備等
⑸部活動の地域展開等をはじめとする発達段階に応じたスポーツの推進等
⑹スポーツ産業の事業者が果たす役割の明示等

2　多様なスポーツの機会の確保のための環境の整備

⑴多様な需要に応じたスポーツを楽しむ機会等の確保（スポーツホスピタリティ）
⑵情報通信技術を活用したスポーツの機会の充実（eスポーツ）

3　全国的な規模のスポーツの競技会等に関する規定についての所要の改正

⑴名称の変更（全国パラスポーツ大会等）、⑵国民スポーツ大会及び全国パラスポーツ大会の意義の明示等、
⑶国際競技大会の我が国への招致等の適正の確保、⑷企業等が果たす役割の明示

4　スポーツの公正及び公平の確保等

⑴暴力等の防止、⑵スポーツに係る競技の不正な操作等の防止、⑶ドーピング防止活動の推進、
⑷スポーツの公正の確保等のための具体的な役割を担うスポーツ団体の組織運営に関する指導等の状況についての報告等

六　スポーツの振興のために必要な資金等

スポーツの振興に関する知識、人材及び資金の好循環の実現等

2．スポーツにおけるドーピングの防止活動の推進に関する法律

概　要

国等が連携を図る関係者として、「一般社団法人日本スポーツフェアネス推進機構」を位置付ける。

第４期スポーツ基本計画の策定について　中間報告案 【概要】

資料 5-5

（対象期間：令和９年度～令和13年度）

第４期計画の基本的な考え方

○　社会状況の変化や、スポーツを通じた社会課題の解決に期待が高まっている現状に対応するとともに、ウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に良い状態）の向上に向け、スポーツ権の実質化を図る観点から、令和７年、スポーツ基本法が大幅改正された。

○　このことも踏まえ、スポーツを通じた社会課題への解決の観点から３つの重点課題を設定し、重点課題への取組を通して、スポーツの楽しさや意義の実感、スポーツの価値のさらなる向上を図ることで、人や組織の関心や行動の変化につなげ、第４期スポーツ基本計画のねらいの実現を目指す。

重点課題

１．国民のスポーツ実施促進と「健康インフラ」構築を通じた、ウェルビーイングの向上や経済成長・豊かな社会の実現への貢献

２．ハイパフォーマンスの追求とアスリート等を取り巻く環境整備による成果・知見の社会への還元

３．スポーツの意義や価値を活かしたスポーツの地域・社会への貢献

構成

第１章においては、「第４期スポーツ基本計画のねらい」として、改正基本法の理念やスポーツ基本法の価値、基本計画策定の考え方について記述し、第２章において、重点課題設定の背景等と重点施策について示す。第３章については、総合計画として、重点施策の他、関連施策も含めた全体像を示す。

第４期計画のねらい：スポーツの「楽しさ」で人や地域の可能性を引き出し、未来を切り拓く

３つの重点課題への取組を通じてねらいの実現を目指す

重点課題１：国民のスポーツ実施促進と「健康インフラ」構築を通じた、ウェルビーイングの向上や経済成長・豊かな社会の実現への貢献

(1)スポーツの「楽しさ」を軸とした多様なスポーツの推進
(2)ライフステージに着目したスポーツ実施率向上のための施策の推進
- ライフステージに着目しつつも、シームレスな取組を推進

(3)多様な背景に着目したスポーツ施策の推進
- 女性のスポーツ実施の促進
- 障害のある者のスポーツ機会の充実による共生社会の実現

(4)スポーツ施策の位置付けの強化の推進
(5)スポーツ実施を促す環境整備のための施策の推進
- スポーツ実施促進を支えるスポーツ関連産業の拡大



重点課題２：ハイパフォーマンスへの追求とアスリート等を取り巻く環境整備による成果・知見の社会への還元

(1)スポーツ医・科学、情報等による多面的で高度な支援の実現
- HPSCの支援の充実と研究の推進、女性アスリートの競技参画の促進、強化活動を支えるDXの推進等

(2)スポーツ・インテグリティの強化
- ガバナンス体制の強化、競技に専念できる環境の実現

(3)キャリア形成支援、アスリートの特性を生かした組織の活性化

スポーツの「楽しさ」



重点課題３：スポーツの意義や価値を活かしたスポーツの地域・社会への貢献

(1)スポーツの成長産業化
- スポーツコンプレックスの推進、スポーツ団体の収益力・財務基盤強化とスポーツ事業運営人材の獲得・育成

(2)地域スポーツ資源の活用
- まちづくりと連携した環境整備、スポーツツーリズム等の地域活性化、担い手となる組織基盤強化

(3)スポーツを通じた国際交流・協力の推進
- 国際貢献人材の育成と国際大会の継続的な招致・開催、官民連携による国際交流・協力を通じた諸外国との信頼関係の構築

各重点課題への取組の方向性と主な数値目標

重点課題１：国民のスポーツ実施促進と「健康インフラ」構築を通じた、ウェルビーイングの向上や経済成長・豊かな社会の実現への貢献

◆ 誰もが生涯を通じてスポーツを継続できる環境を整備し、スポーツを活用して経済成長を支える国民一人一人の心身の健康の保持・増進の基盤＝「健康インフラ」の構築を目指す

◆ これまでの課題を踏まえ、ターゲットとすべき重点対象を明確化して効率的に取組を進める

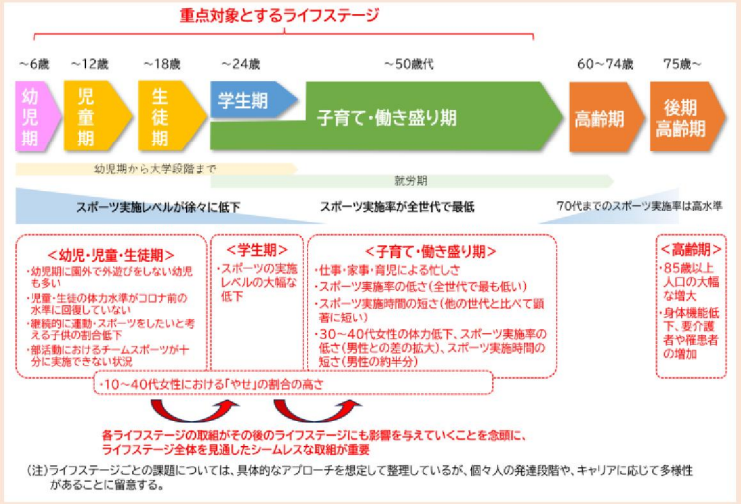
【主な数値目標】※スポーツ実施率は、週１日以上運動・スポーツを実施する者の割合をいう

ライフステージをつなぐ数値目標（例）

- ✓ 幼児・児童・生徒期：運動・スポーツをする中で体を動かすことや友達との交流・協力などの多様な「楽しさ」を実感することができている児童・生徒の割合：令和８年度調査予定　等
- ✓ 学生期（18歳～24歳）：スポーツ実施率※　60.9%　→　65%
- ✓ 子育て・働き盛り期：
  スポーツ実施率※ 47.2% → 55%、男女差 6.2ポイント　→　なくす
  勤務先で運動・スポーツを活用した取組が行われているとする者の割合 21.3% → 30%以上　等

多様な背景に着目した数値目標（例）

- ✓ 障害者：スポーツ実施率※　19歳まで 50%、20歳以上 40%以上



重点課題２：ハイパフォーマンスへの追求とアスリート等を取り巻く環境整備による成果・知見の社会への還元

◆ アスリートとそれに関わる全ての人の「ウェルビーイング」に配慮した国際競技力向上を目指す

◆ ハイパフォーマンスの追求や環境整備、アスリートのキャリア形成支援のより多角的な促進等を通じて、その知見等を社会に還元する

【主な数値目標】

- ✓ 研究成果に関する査読付き論文の発表数：毎年度100本以上
- ✓ メディカルチェックで課題ありとされた女性アスリートの割合：67.4%(R7)→減少
- ✓ 適合性審査で要改善事項の指摘を受けた団体のうち、フォローアップにて改善が確認された団体の割合：91.7%（R7）→ 100%
- ✓ 「誹謗中傷への対策があることにより、誹謗中傷に起因する不安が軽減された」と答えるアスリートの割合：100%（今後調査予定）
- ✓ アスリートが活躍する企業・団体・地方公共団体等における取組の把握/事例：15事例（今後調査予定）

重点課題３：スポーツの意義や価値を活かしたスポーツの地域・社会への貢献

◆ 官民連携やスポーツと他分野との連携など、様々なステークホルダーが連携し、スポーツを通じて地域や社会の目指す姿の実現や課題解決を実現する

◆ スポーツを通じて持続可能で包括的な社会づくりや我が国の国際的なプレゼンス向上に貢献する

【主な数値目標】

- ✓ スポーツ市場規模：11.6兆円（R4）→ 15兆円（遅くともR12）
- ✓ エリア全体で経済的価値、社会的価値の創出に向けた運営を行っているスポーツコンプレックスの件数の増加
- ✓ 年間を通じ平日に学校体育施設を地域で共同利用する学校の割合：71.8% → 100%に近づける
- ✓ 訪日外国人のスポーツツーリズム関連消費額：800億円
- ✓ 国際機関における役員数：IF等42人(R7)→ R8の人数規模を維持・拡大【P】